

1. はじめに

南九州大学の本格的な FD 活動は、平成 21 年に FD 推進委員会が発足してからであり、早いもので平成 24 年度末にて 4 年間活動を行ってきたことになります。次年度の平成 25 年度は節目の活動 5 年目を迎えることになります。

これまでの間、大学教員をはじめ関係教職員の皆様方にご協力・ご理解を得ながら種々の事業を実施することができております。FD の事業の数も年々増え、平成 24 年度は 7 事業を実施することができ、ますます充実してきております。

しかしながら、まだまだ一つひとつの事業について反省点がいくつか存在し、さらに充実させるためには検討をしなければならないこともあります。平成 25 年度以降の南九州大学の FD 活動がさらに充実・発展させるためには、これまでに行った FD 活動の内容を反省点も含めて詳細に記録として残す必要があるかと思えます。

したがって本報告書は、平成 24 年度内で行った種々の FD 活動事業の詳細を反省も含めて詳細に報告させていただきたいと思えます。次年度以降の FD 推進委員会を中心として、その他大学・学園の各種関係機関・部署・部門が本報告書を参考にされ、南九州大学の FD 活動の充実・発展、ひいては大学・学園の充実・発展のために役立てていただければと考えております。

最後に、平成 24 年度の本学の FD 活動にご理解をいただき、またさまざまな実施事業にご参加いただいた教職員の皆様に感謝申し上げます。また本報告書の作成をご担当いただいた各学科・センター・事務局の教職員の方々には多大なご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

平成 25 年 3 月

平成 24 年度南九州大学 FD 推進委員会

委員長 朝見 祐也

平成 24 年度南九州大学 FD 推進委員会メンバー

環境園芸学科	管理栄養学科	食品健康学科	子ども教育学科	教養・教職センター
陳 教授	竹之山 准教授	山田 教授	黒川 教授	スモール 講師
菅野 教授	朝見 准教授	中瀬 准教授	若宮 講師	

事務局（宮崎）	上野 部長	赤木 課長	金森 課長	黒木 課長	奥野 主任
事務局（都城）	金丸 部長	猪俣 係長	甲斐 主任		

2. FD 推進委員会開催報告

南九州大学では、FD 活動を進めていくにあたり、「FD 推進委員会」を組織し、当該委員会によって、FD 活動の事業の計画、実行などにあたっている。平成 24 年度中に開催された FD 推進委員会について以下に示す。

第 1 回：平成 24 年 5 月 28 日開催

議案 (1) 平成 24 年度 FD 推進委員会委員長の選出

第 2 回：平成 24 年 6 月 19 日開催

議案 (1) 平成 24 年度 FD 推進委員会事業計画について

- (2) 平成 24 年度前期授業評価アンケートの実施について
- (3) 平成 24 年度 FD 講演会の内容および時期の検討について
- (4) 平成 24 年度新入生魅力度および卒業生満足度調査の実施について

第 3 回：平成 24 年 7 月 17 日開催

議案 (1) 平成 24 年度南九州大学 FD 講演会の実施（案）

- (2) 南九州大学 FD 活動の情報公開の方法（案）

第 4 回：平成 24 年 9 月 25 日開催

議案 (1) 平成 24 年度前期授業評価アンケートの結果（学科・センター別）について

- (2) 平成 24 年度後期授業評価アンケートの実施（案）について
- (3) 平成 24 年度後期参観授業の実施（案）について
- (4) 南九州大学 FD 活動の情報公開の方法（案）
- (5) 平成 24 年度南九州大学 FD 講演会の準備進捗状況報告

第 5 回：平成 25 年 2 月 25 日開催

議案 (1) 平成 25 年度 FD 推進委員会事業計画について

- (2) 平成 24 年度魅力度・満足度調査の結果（学科別）について
- (3) 平成 24 年度後期授業評価アンケートの結果（学科・センター別）について
- (4) 平成 24 年度後期参観授業の結果（学科・センター別）について
- (5) 平成 24 年度 FD 講演会の報告について
- (6) 平成 24 年度 FD 活動報告書のまとめ方について

3. FD 活動一覧

平成 24 年度に行った南九州大学の FD 活動の一覧を以下に示す。詳細な報告内容は、あとのページで詳しく記述するので、ここでは、簡単な概要のみ報告する。

事業【1】 授業評価アンケートの実施（前期・後期とも）

教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として、例年と同様に引き続き継続して実施した。授業評価アンケートは集計後、結果は各教員に開示し、各教員は結果に基づく授業改善報告書を作成いただいた。また学科別にアンケート集計値を出し、学科別にも分析を行った。今回のアンケートで得られた各教員個人および学科の問題点・改善点は今後の教育活動に活用していく。

事業【2】 参観授業の実施（後期）

授業評価アンケートと同様に教員の教授法改善等を目的として毎年行っている。平成 24 年度は多くの先生方に参観いただくため、これまで以上に参加促進を行ったが、あまり効果が見られなかった。多くの先生方に参観いただくことはこの事業にとって重要であるので、今後さらなる改善が必要となる。

事業【3】 FD 講演会の実施

教員の FD 活動に対する理解および FD 活動の推進を目的として平成 22 年度から行っている。平成 24 年度は 1 回の講演会を実施した。大学評価・学位授与機構 評価研究部准教授の栗田佳代子先生を講師としてお願いし、「ティーチング・ポートフォリオ（TP）の導入・活用について」という題目で講演をいただいた。多くの教職員の先生方に参加いただき、充実した講演会となった。

事業【4】 各学科独自の FD 活動の実施

各学科においても全学的な事業同様に、学科独自の特色ある FD 活動を本年度も活発に行った。

事業【5】 新入生魅力度評価アンケートおよび卒業生満足度評価アンケートの実施

本調査は、魅力ある大学づくりのための情報を収集するために本年度から実施した。本事業により様々な事項を知ることができたが、次年度以降は必要に応じてアンケート内容などで改善を行っていく。本事業で出た結果は、各学科における教育活動および研究活動のみならず、広報活動にも利用でき、また学園の運営の方向性を示すための参考になるものと思われる。

事業【6】 FD 活動の情報公開の検討

他大学では、FD 活動をホームページ上や印刷物で紹介しており、「FD 活動の公開」が進んでいる。本学においても「FD 活動の公開」について検討し、ある一定の情報公開の方向の結論を得た。今後は大学ホームページ上で情報公開できるよう準備していく。

事業【7】 FD 活動報告書の作成

平成 24 年度に行った FD 活動の詳細を記録するために実施した。報告書は事業の詳細のみならず、反省点も詳細に記録することで、次年度以降の FD 活動等に役立てていく。

4. 授業評価アンケート報告

平成 24 年度においても、教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として、前期および後期とも授業評価アンケートを実施した。

前期および後期の実施要領を以下に示す。

【前期授業評価アンケート実施要領】

目的

教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として実施する。

対象

専任教員が担当する授業（原則 1 教員 1 授業）（2 授業以上も推奨：ただし 2 授業目以降のアンケートの集計は、各教員で行う）（園芸学科、造園学科、地域環境学科教員に関しては、受講数がかなり少なくなることが予想されるため、アンケート実施に関しては自由とする）
＜非常勤のアンケート実施について＞

非常勤については、希望者のみアンケート参加可能とする。

実施時期

7 月 17 日（火）～23 日（月）を原則とする。

（上記期間での実施が不可能な場合は多少前後しても問題ない）

（使用するアンケート表および授業改善報告書のフォーマット）

別に示す通り（様式①、②）

実施手順

①学生支援課より、各先生方へ＜実施する授業名＞＜アンケート実施時間（授業前・後）＞についての案内をする。各教員は学生支援課が指定する期日までに授業名・実施時間を回答する。

②学生支援課員は、事前に受講生分のアンケート用紙準備しておく。

③アンケート実施当日、学生支援課員はアンケート用紙を授業時間（授業開始後または終了前）に配付し、教員はアンケートの目的等について学生に説明を行う。説明後、教員は教室を退出する。

【教員が説明する内容】

- ・ 目的説明⇒教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として実施する
- ・ その他説明⇒アンケートは無記名で回答、学生の成績評価とは無関係

④学生支援課員（都城 C は、学生支援課員が少数であるので、他部署事務部員も担当する）

は、対象科目の授業時間（授業開始後または終了前）に待機し、アンケート終了後に回答用紙を回収する。

⑤アンケートは7～8月中に集計が行われる。学生支援課を通じて各教員へ報告が行われる。各教員は、集計結果・自由記述欄結果をもとに授業改善報告書を作成し、FD推進委員長へ報告書を提出する。作成された授業改善報告書は、今年度後期および次年度前期の授業開始時に各教員へ返送され、各教員は授業の問題点を認識して、問題点を意識した授業を行ってもらうこととする。

その他

- 自由記述欄をフォーマットのままで実施する場合は、アンケート用紙は学生支援課で準備し、回収担当者が実施時間に持参する。
- 自由記述欄は学科や教員単位で設定可能とする。独自にオリジナルなものを作成する場合は、その旨を学生支援課にご連絡しておく。アンケート用紙は各自で印刷してもらう。（各学科あるいは各教員で特徴あるアンケートが実施できるよう、積極的に自由記述欄を活用いただきたい）
- 教員が担当する科目を全て行う場合は実施しても問題ないが、その科目の集計作業は実施する教員が行うこととする。

（アンケート結果の学生への公開について）

アンケート結果の学生への公開については、集計後に掲示板にて公開することとする。

後期授業評価アンケート実施要領

目的

教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として実施する。

対象

専任教員が担当する授業（原則1教員1授業）（2授業以上も推奨：ただし2授業目以降のアンケートの集計は、各教員で行う）

<非常勤のアンケート実施について>

非常勤については、希望者のみアンケート参加可能とする。（非常勤講師室内にて募集ポスター掲示）

実施時期

11月27日（火）～12月3日（月）を原則とする。

（上記期間での実施が不可能な場合は多少前後しても問題ない）

（使用するアンケート表および授業改善報告書のフォーマット）

別に示す通り（様式③、④）

実施手順

①学生支援課より、各先生方へ＜実施する授業名＞＜アンケート実施時間（授業前・後）＞についての案内をする。各教員は学生支援課が指定する期日までに授業名・実施時間を回答する。

②学生支援課員は、事前に受講生分のアンケート用紙準備しておく。

③アンケート実施当日、学生支援課員*はアンケート用紙を授業時間（授業開始後または終了前）に配付し、アンケートの目的及び提出方法について学生に説明を行う。

1. 目的説明⇒教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として実施する

2. その他説明⇒アンケートは無記名で回答、学生の成績評価とは無関係
アンケートの実施中については、教員は教室から退出しておく。

④学生支援課員*は、アンケート終了後に回答用紙を回収する。

⑤アンケートは 12～1 月中に集計が行われる。集計結果は、学生支援課を通じて各教員へ報告が行われる。各教員は、集計結果・自由記述欄結果をもとに授業改善報告書を作成し、FD 推進委員長へ報告書を提出する。作成された授業改善報告書は、次年度前期および後期の授業開始時に各教員へ返送され、各教員は授業の問題点を認識して、問題点を意識した授業を行ってもらうこととする。

（*：都城 C は、学生支援課員が少数であるので、他部署事務部員も担当することとする）

その他

- 自由記述欄をフォーマットのままで実施する場合は、アンケート用紙は学生支援課で準備し、回収担当者が実施時間に持参する。
- 自由記述欄は学科や教員単位で設定可能とする。独自にオリジナルなものを作成する場合は、その旨を学生支援課にご連絡しておく。アンケート用紙は各自で印刷してもらう。（各学科あるいは各教員で特徴あるアンケートが実施できるよう、積極的に自由記述欄を活用いただきたい）
- 教員が担当する科目を全て行う場合は実施しても問題ないが、その科目の集計作業は実施する教員が行うこととする。

（アンケート結果の学生への公開について）

アンケート結果の学生への公開については、集計後に掲示板にて公開することとする。

アンケート結果の分析については、本学のユニークな学科構成を考慮して、学科・センター別に分析を行った。以下に学科・センター別に分析した結果を示す。

様式①ー前期授業評価アンケートフォーマット

授業評価アンケート票

平成24年度前期(南九州大学FD推進委員会)

このアンケートは、個々の教員の授業改善を目的として実施するもので、皆さんの成績評価とは無関係です。個々の意見は、教員が参考にさせていただき、今後の授業改善に活用させていただきますので、率直な回答をお願いします。

以下の設問に回答して下さい。回答は次の5段階評価により、回答欄の該当する番号に○をつけて下さい。

回答番号	5	4	3	2	1
	特にそう思う	多少そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない

○回答者所属学科・学年(学科 学年)

設問番号	学生の授業取り組みに関する質問	回答欄				
①	私はこの授業によく出席した	5	4	3	2	1
②	私は授業内容について質問や発言をした	5	4	3	2	1
③	私はこの科目に積極的に取り組んだ(予習や復習をした)	5	4	3	2	1
	教員の授業実施方法に関する質問					
④	教員の声は聞き取りやすかった	5	4	3	2	1
⑤	教員の板書(またはPPT・配布資料等)は読みやすかった(見やすかった)	5	4	3	2	1
⑥	教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた	5	4	3	2	1
⑦	教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた	5	4	3	2	1
⑧	教員は熱意を持って授業をしていた	5	4	3	2	1
	総合的評価					
⑨	私はこの授業内容を理解できた	5	4	3	2	1
⑩	私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役に立つと感じた	5	4	3	2	1
⑪	私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた	5	4	3	2	1

自由意見欄

(上記設問の回答で「1」および「2」を選択した場合は以下に選択した理由をできれば記入してください。)

(授業に関する意見がある人は自由に記入してください。)

※ 教員あるいは学科単位で設問を自由に設定していただき、その回答を記述する形態としても構いません。

○回答授業科目名()

平成24年度前期授業改善報告書

教員名 _____ アンケート実施科目 _____

アンケート集計結果に対する自己分析および改善すべき点を記述して下さい(ご自身が平成23年度後期の「授業改善報告書」に記述した, “授業改善に向けた施策”を実行できたかどうかも含めて記述して下さい)。

今後平成24年度後期および平成25年度前期の授業に向けて, 上記改善点を意識した次年度授業の, 授業改善に向けた施策をできるだけ具体的に記述して下さい。

注意: 本報告書は, 平成24年度後期および平成25年度前期の授業開始時に各教員へお返しします。次年度の授業は上記内容を意識した授業運営をお願いいたします。

様式③ー後期授業評価アンケートフォーマット

授業評価アンケート票

平成24年度後期(南九州大学FD推進委員会)

このアンケートは、個々の教員の授業改善を目的として実施するもので、皆さんの成績評価とは無関係です。個々の意見は、教員が参考にさせていただき、今後の授業改善に活用させていただきますので、率直な回答をお願いします。

以下の設問に回答して下さい。回答は次の5段階評価により、回答欄の該当する番号に○をつけて下さい。

回答番号	5	4	3	2	1
	特にそう思う	多少そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない

○回答者所属学科・学年(学科 学年)

設問番号	学生の授業取り組みに関する質問	回答欄				
①	私はこの授業によく出席した	5	4	3	2	1
②	私は授業内容について質問や発言をした	5	4	3	2	1
③	私はこの科目に積極的に取り組んだ(予習や復習をした)	5	4	3	2	1
	教員の授業実施方法に関する質問					
④	教員の声は聞き取りやすかった	5	4	3	2	1
⑤	教員の板書(またはPPT・配布資料等)は読みやすかった(見やすかった)	5	4	3	2	1
⑥	教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた	5	4	3	2	1
⑦	教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた	5	4	3	2	1
⑧	教員は熱意を持って授業をしていた	5	4	3	2	1
	総合的評価					
⑨	私はこの授業内容を理解できた	5	4	3	2	1
⑩	私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役に立つと感じた	5	4	3	2	1
⑪	私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた	5	4	3	2	1

自由意見欄

(上記設問の回答で「1」および「2」を選択した場合は以下に選択した理由をできれば記入してください。)

(授業に関する意見がある人は自由に記入してください。)

※ 教員あるいは学科単位で設問を自由に設定していただき、その回答を記述する形態としても構いません。

○回答授業科目名()

平成24年度後期授業改善報告書

教員名 _____ アンケート実施科目 _____

アンケート集計結果に対する自己分析および改善すべき点を記述して下さい(ご自身が平成23年度後期および平成24年度前期の「授業改善報告書」に記述した, “授業改善に向けた施策”を実行できたかどうかも含めて記述して下さい)。

今後平成25年度前期および後期の授業に向けて, 上記改善点を意識した次年度授業の, 授業改善に向けた施策をできるだけ具体的に記述して下さい。

注意: 本報告書は, 平成25年度前期および後期の授業開始時に各教員へお返しします。次年度の授業は上記内容を意識した授業運営をお願いいたします。

【環境園芸学科】

表 アンケート平均値の推移（環境園芸学科授業全体）

設問番号	H22年度		H23年度		H24年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
①	4.48	4.38	4.37	4.24	4.28	4.24
②	2.67	2.81	2.66	3.05	2.79	2.95
③	3.19	3.32	3.23	3.44	3.35	3.45
④	4.08	4.21	4.05	4.18	4.18	4.18
⑤	3.82	3.97	3.94	4.10	4.02	4.02
⑥	4.25	4.33	4.26	4.35	4.40	4.32
⑦	3.98	4.14	3.99	4.21	4.11	4.15
⑧	4.30	4.40	4.36	4.37	4.40	4.40
⑨	3.56	3.76	3.65	3.85	3.78	3.83
⑩	3.86	3.99	3.98	4.04	4.06	4.05
⑪	3.77	3.97	3.90	4.03	4.01	4.01

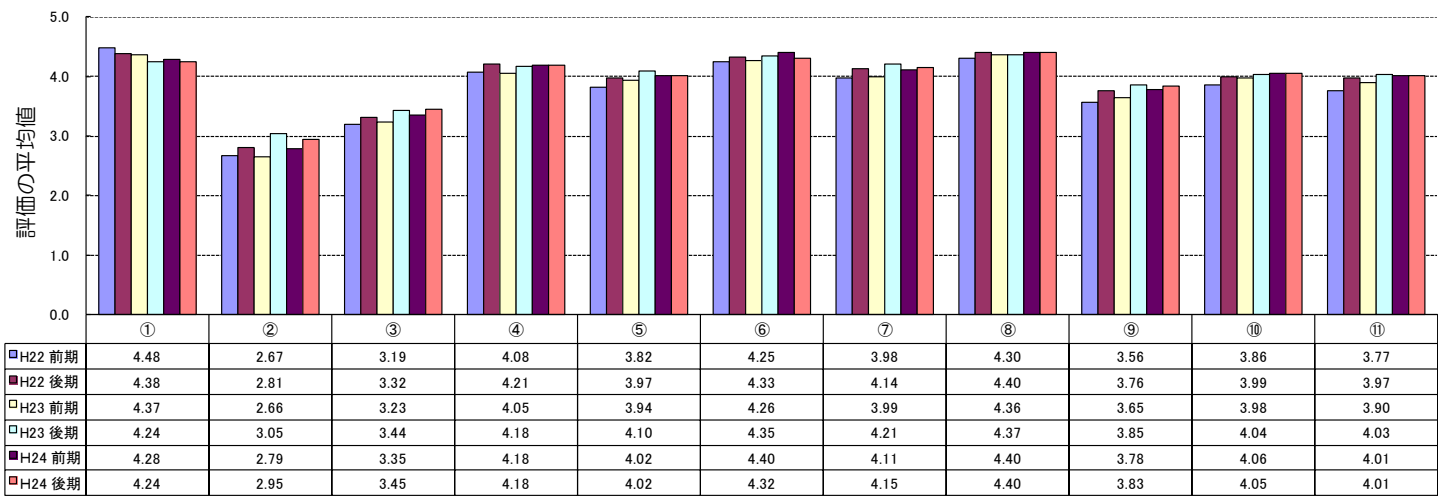


図 アンケート平均値の推移（環境園芸学科授業全体）

<<前期>>

1)全体について

・昨年度の平均値と比して、顕著な値の変化は見られないが、設問1)を除いては、いずれの項目も年々改善傾向にあることが窺え、アンケート実施および評価分析に伴う各教員の授業改善の取り組みにより効果が現れていると思われる。

・設問1)についてはむしろ年を追うごとに低下傾向にあり、このことは出席率が低下していることを示

し、設問2)の授業中の質問や発言、設問3)の積極的取り組みにおいて、どちらともいえないという回答にピークがあることに現れていると思われる。

・他の設問に比べ、今回の結果でも設問2)および3)のポイントが特に低い。受講生の授業への積極的参加を促すよう、各科目ごとに授業の特色に合わせて各教員が授業改善報告書にまとめたような具体的改善策を講じることや、各教員のやり方・考え方などを学科内で紹介するなど今後も情報交換を続けていくことが望まれる。

2)各設問について

・設問 1. 81%の学生が「4、5」つまり授業によくまたは比較的出席していると回答しているが、およそ 2 割の学生が「1、2、3」よく出席したとは考えていない。今後はこの値を下げるような取り組みが望まれる。

・設問2. 少人数でのゼミとは違い、受講生の多数の講義では質問や発言しにくい部分があると思われる。講義終了後に質問される場合も多くみられることから、講義終了後の質問についても設問に記載しても良いと考える。

・設問3. 回答の「3 どちらともいえない」を含めると約半数の学生が積極に取り組んでいないと回答している。各科目の位置づけを明確にし、特色に合わせて自発的な参加意欲を高めるような具体的方策が望まれる。

・設問4. 1割弱が「1、2」つまり教員の声が聞き取り難いと回答している。マイクの使用や教室の変更などの各教員の対応で改善可能と思われる。

・設問5. 1割弱が「1、2」つまり教員の板書等は見づらいと回答している。設問4と同様にプレゼンテーション方法や質の工夫など、各教員の対応で改善可能と思われる。

・設問6. 比較的授業時間は守られていると判断されている。継続が望まれる。

・設問7. 不満を抱いている学生は約5%で、概ね良好であると考えられる。現在の状況を維持しつつも学生の理解度や意見を吸い上げる工夫が望まれる。

・設問8. 各教員が熱意を持って授業に取り組んでいると判断される。継続が望まれる。

・設問9. 「5」つまり授業を非常によく理解できた回答しているのは約 22%であり、多くの学生が自信をもってよく理解できたとは言えない状況にある。設問2)および3)の結果を合わせ考えると、学生の取り組み姿勢といった根本的な課題とも考えられる。今後の継続的な分析と取り組みが望まれる。

・設問10. 徐々にではあるが、每期ごと評価ポイントが上がっており、授業改善の効果が認められているのではないかと。おおむね良好であるが、約4%の学生は不満を抱いているのも見逃せない。

・設問11. おおむね良好と思われるが、「5」の割合は約 35%であった。この評価が学生の授業に対する総合的な判断であり、多くの学生において絶対的な満足感が得られているわけではない。学生の授業に対する積極的な取り組み(設問3))や理解度を向上させる(設問9))ことも総合評価の改善に結びつくと考えられる。これまで2年間の結果から評価の飛躍的な向上は難しいと考えられるが、徐々に改善は見られていると判断される。半期ごとに行われている各設問の評価の分析とその

結果をもとにした各教員および学科の地道な改善努力の継続が重要であると考えられる。

<<後期>>

1)全体について 表 アンケート平均値の推移（環境園芸学科授業全体）

・昨年度の平均値と比して、ポイントは4項目で増、3項目で減、4項目で同ポイントとなっているが、顕著な値の変化は見られない。授業評価開始年度からみると改善されたものが維持傾向にあることが窺え、アンケート実施および評価分析に伴う各教員の授業改善の取り組みが定着しつつあると思われる。

2)各設問について

・設問1. 前回(H24年度前期)の結果以外、低下傾向にあり、このことは出席率が低下していることを示している。授業評価アンケートの結果も併せ各教員は授業改善に努めているが、1/4の学生が「1、2、3」よく出席したとは考えていない。学生の取り組み姿勢の改善を図り、今後はこの値を下げるような取り組みが望まれる。

・設問2. 他の設問と比べ、以前ポイントが低い。少人数でのゼミとは違い、受講生の多数の講義では質問や発言しにくいこともその要因として考えられる。講義終了後に質問される場合も多くみられることから、講義終了後の質問についても設問に記載しても良いと考える。

・設問3. これまでの各期の結果の中では最も高いポイントだったが、全体として設問2に次いで低評価である。回答の「3 どちらともいえない」を含めると半数以上(54%)の学生が積極的に取り組んでいないと回答している。各科目の位置づけを第一回目の講義や専攻説明会、研究室配属説明会を通じて明確にし、特色に合わせて自発的な参加意欲を高めるような具体的方策が望まれる。学生に積極的に取り組む姿勢・必要性を授ける方策が必要であると考えられる。例えば、授業の前に定期的に小テストやレポートなどの実施、またその結果も本テストの成績に反映させることによって、学生が自ら取り組むことになるのではないかと考えられる。

・設問4. 「1、2」つまり教員の声が聞き取り難いとの回答が1割を切った。マイクの使用や教室の変更などの各教員の対応により改善が図られたものと考えられる。各授業において学生に声が聞こえているかを確認することにより、より改善がなされるものと思われる。

・設問5. 前期と同様に1割弱が「1、2」つまり教員の板書等は見づらいと回答している。プレゼンテーション方法や質の工夫など、各教員の対応で改善可能と思われる。

・設問6. 比較的授業時間は守られていると判断されている。継続が望まれる。

・設問7. 不満を抱いている学生は5%以下で、概ね良好であると考えられる。現在の状況を維持しつつも、授業中、学生に意見を聞いたり、問いかけをしたりするなど学生の理解度や意見を吸い上げる工夫が望まれる。

・設問8. 各教員が熱意を持って授業に取り組んでいると判断される。継続が望まれる。

・設問9. 「5」つまり授業を非常によく理解できた回答しているのは全体の1/4であり、多くの学生が

自信をもってよく理解できたとは言えない状況にある。設問2)および3)の結果を合わせ考えると、学生の取り組み姿勢といった根本的な課題とも考えられる。今後の継続的な分析と取り組みが望まれる。この設問3)の結果から、日頃、予習や復習しなくても受講できることが示され、また、この設問9)の結果から日頃の授業は理解できなくても受講できる状態となっていることが示唆される。日頃の小テストなどの実施によって学生がどこまで理解できたかを随時把握できることにも繋がる。今後、大いに検討すべき課題であると思われる。

・設問10. 前回までは徐々にではあるが、每期ごと評価ポイントが上がっており、今期は前期と同等のポイントで、授業改善が継続維持されているものと思われる。ただし、「3」のどちらともいえない、を含めるとおよそ 1/3 の学生に将来役に立つと認識されていない。設問9)と同じく学生の取り組み姿勢についての課題もあると思われるが、科目の意義や位置づけ、特色の理解を深めることが改善に結びつくと思われる。

・設問11. おおむね良好と思われるが、「5」の割合は約 37%であった。この評価は他の全設問を通した総合的な評価であり、多くの学生において絶対的な満足感が得られているわけではない。これまでの授業評価結果をもとに各教員は各設問項目を中心に改善を図っているが、学生自信の授業に対する積極的な取り組み(設問3))や理解度を向上させる(設問9))ことも総合評価の改善に結びつくと考えられる。これまでの結果から評価の飛躍的な向上は難しいと考えられるが、徐々に改善は見られていると判断される。半期ごとに行われている各設問の評価の分析とその結果をもとにした各教員および学科の地道な改善努力の継続が重要であると考えられる。

【管理栄養学科】

<<前期>>

(アンケート集計結果(平均値))

(()内は平成 23 年度前期結果・< >内は平成 23 年度後期結果)

設問 1) 私はこの授業によく出席した 4.78 (4.82) <4.80>

設問 2) 私は授業内容について質問や発言をした 2.81 (2.58) <2.93>

設問 3) 私はこの科目に積極的に取り組んだ(予習や復習をした) 3.38 (3.35) <3.47>

設問 4) 教員の声は聞き取りやすかった 4.28 (4.27) <4.10>

設問 5) 教員の板書(または PPT・配布資料等)は読みやすかった(見やすかった)

3.87 (3.83) <3.94>

設問 6) 教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた 4.55 (3.36) <4.52>

設問 7) 教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた 4.03 (3.98) <4.09>

設問 8) 教員は熱意を持って授業をしていた 4.38 (4.29) <4.41>

設問 9) 私はこの授業内容を理解できた 3.69 (3.81) <3.76>

設問 10) 私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役立つと感じた

4.44 (4.29) <4.38>

設問 11) 私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた 4.10 (4.04) <4.07>

- ・ アンケートを取った授業科目の多くで一致しているであろう、前々回のアンケート集計結果(平成 23 年度前期)からは一部の設問を除き、比較的平均値が上昇した。各教員一人ひとりが自身の欠点等を意識した授業を行った結果が出ていると考えられる。
- ・ 設問 10)については、前回、前々回のアンケート集計結果から大きく上昇したことは大変大きい。管理栄養学科では、『現場で活躍できる即戦力をもった人材育成』をしているが、「将来役に立つと感じた」設問が高い点数であることは大きい。
- ・ これまでと同様に設問 2), 3)の学生の積極性に関しての設問は低かった。校外実習や臨地実習でも「学生の積極性」についてはお叱りを受けることが多く、「積極性を高めるための施策」を学科として考えていくことも必要である。
- ・ 自由記述欄にかなり過激なことを記述する学生もいるので、アンケートを記名式とするのも一つである。
- ・ 学科でこのような反省点をまとめることも重要であるが、何よりも学科教員一人ひとりが反省点をしっかり意識して、後期や次年度以降へつなげることが大変重要である。特に設問 5)および 9)の点数が他より低いため、各教員一人ひとりの対策が必要となる。

<<後期>>

(アンケート集計結果(平均値))

(< >内は平成 23 年度後期期結果・()内は平成 24 年度前期結果)

設問 1) 私はこの授業によく出席した 4.84 <4.80> (4.78)

設問 2) 私は授業内容について質問や発言をした 3.33 <2.93> (2.81)

設問 3) 私はこの科目に積極的に取り組んだ(予習や復習をした) 3.74 <3.47> (3.38)

設問 4) 教員の声は聞き取りやすかった 4.30 <4.10> (4.28)

設問 5) 教員の板書(または PPT・配布資料等)は読みやすかった(見やすかった)

3.98 <3.94> (3.87)

設問 6) 教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた 4.55 <4.52> (4.55)

設問 7) 教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた 4.20 <4.09> (4.03)

設問 8) 教員は熱意を持って授業をしていた 4.45 <4.41> (4.38)

設問 9) 私はこの授業内容を理解できた 4.08 <3.76> (3.69)

設問 10) 私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役立つと感じた

4.53 <4.38> (4.44)

設問 11) 私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた 4.27 <4.07> (4.10)

- ・ すべての設問の平均値が前回・前々回からポイント上昇した。これまで行ってきた授業評価アンケートの結果を各教員一人ひとりが意識し、学生のためによりよい授業を行った結果が出ていると考えられる。
- ・ これまで設問 3)に関して、特にポイントが低く、毎回改善点に上がっていたが、平均値 3 点以上となり、大きく改善した。これまでのアンケートの結果を意識した授業運営が行われている結果がでた。
- ・ 設問 9)・10)も大きく前回・前々回からポイントがアップしている。授業運営のみならず、授業の中身まで充実した内容になってきていることがうかがえる。
- ・ 各設問項目で平均値が 4 点以上になるように今後も学科として対策を検討していかなくてはならない、点数が大きく上がっているからといっても設問 2)・3)はまだ 3 点台である。学生が積極的に授業に参加できるような雰囲気作りを目指していかなくてはならない。

学科でこのような反省点をまとめることも重要であるが、何よりも学科教員一人ひとりが反省点をしっかり意識して、後期や次年度以降へつなげることが大変重要である。

【食品健康学科】

<<前期>>

1. 平成 24 年度前期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
柏田雅徳	食品開発実習Ⅱ	3	22
山田光子	薬理学	3	22
寺原典彦	食品基礎実験	1	27
外山英男	フードスペシャリスト論	1	29
紺谷靖英	微生物学	1	33
中瀬昌之	農産物利用学	3	23
		合計	156

(参考)平成 23 年度前期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
柏田雅徳	食品開発実習Ⅱ	3	14
山田光子	薬理学	3	14
寺原典彦	食品学実験Ⅰ	2	16
外山英男	フードスペシャリスト論	1	29
紺谷靖英	微生物学	1	40
中瀬昌之	食品科学概論	1	26
		合計	139

(参考)平成 23 年度後期 授業評価アンケート実施科目

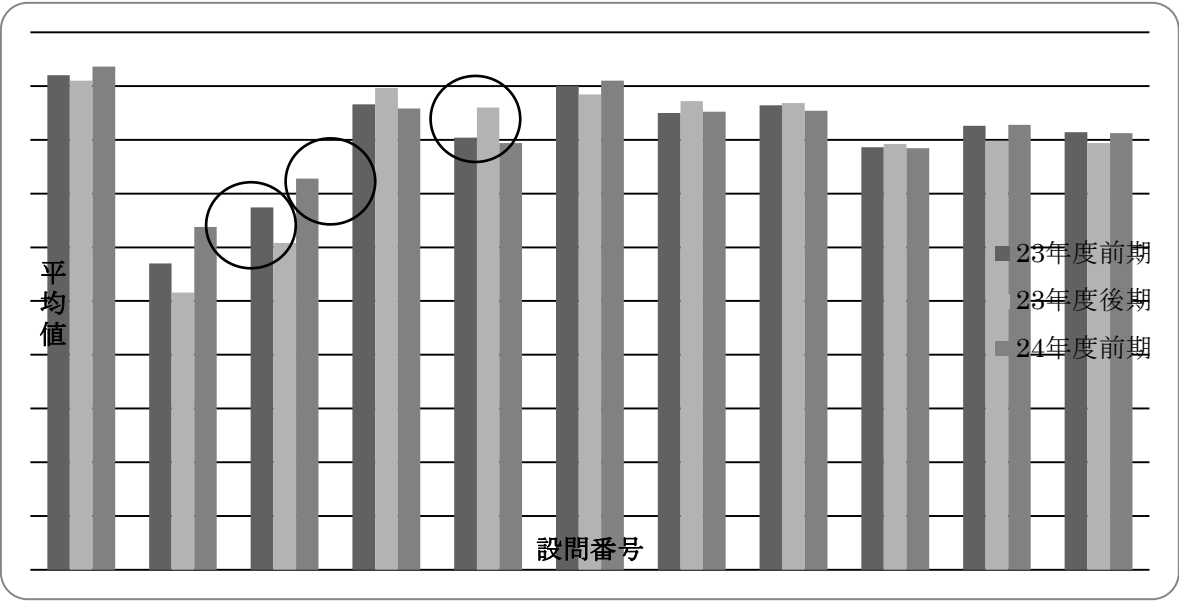
教員名	科目名	学年	回答者数
柏田雅徳	食品開発実習Ⅰ	2	18
山田光子	生理学	1	28
寺原典彦	食品機能学	2	18
紺谷靖英	健康科学	2	28
中瀬昌之	食品学Ⅱ	2	21
		合計	113

2. 平成 24 年度前期 アンケート結果

設問番号	回答欄					回答数 (人)	平均値
	5	4	3	2	1		
①	118	27	10	1	0	156	4.68
②	25	28	64	29	10	156	3.19
③	33	51	56	10	4	154	3.64
④	76	58	16	4	2	156	4.29
⑤	66	40	32	15	3	156	3.97
⑥	102	38	13	2	0	155	4.55
⑦	75	53	22	5	1	156	4.26
⑧	75	57	18	3	3	156	4.27
⑨	49	61	32	12	2	156	3.92
⑩	67	57	24	3	5	156	4.14
⑪	57	63	28	4	4	156	4.06

(未回答 2)

(無効回答
1)



各学期のアンケート結果

設問 1. 私はこの授業によく出席した。

平均値 4.68(23 年度前期 4.60, 後期 4.55)で概ね良好である。一方、回答番号 3 以下の割合が約 7%存在する。引き続き学科教員間で学生の出欠状況の情報共有を行い、早い段階で怠学者の抽出を行い、指導教員を中心に対応していくことが重要である。

設問 2. 私は授業内容について質問や発言をした。

平均値 3.19 で、これまでの授業評価アンケートの結果と同様に、設問中最も低い。しかし、23 年度前期の平均値 2.85 および 23 年度後期の平均値 2.58 と比較して改善傾向にある。各教員が質問可能な時間帯を設けたり、学生が自主的に質問しやすい雰囲気作りをしたりするなど双方向性の授業形態に向けて努力した成果が表れていると考えられる。

設問 3. 私はこの科目に積極的に取り組んだ(予習や復習をした)。

平均値が 3.64 で 23 年度前期(3.37)および後期(3.04)と比較して上昇した。特に、回答番号 2 以下の割合が昨年度は 30%近くであったのが今回は 10%未満に減少した。学生に自学自習の習慣を身に付けてきたことの表れであると期待できる。

設問 4・5・6・7・8 は教員の授業実施方法に関する質問である。

平均値が 3.97－4.55 と概ね良好であり、同一科目が対象ではないが、昨年度の平均値をほぼ維持している。設問 5「教員の板書は見やすかった」に関しては、昨年度の後期(平均値 4.30)と比較して低下し(3.97)、設問番号 1 及び 2 の回答数が増加した(全体の約 12%)。これは、昨年度のアンケート実施時とは異なる授業科目及び担当者を対象としたためと考えられる。

設問 9. 私はこの授業内容を理解できた。

平均値が 3.92 と昨年度の平均値(前期 3.93, 後期 3.96)とほぼ同様の良好な結果であった。しかしながら、回答番号 3 以下の回答が約 30%見られた。授業レベルを落とさずに学生の理解度を増すための教員側の努力が重要である。

設問 10. 将来役に立つと感じた。

平均値 4.14 であり、昨年度の平均値(前期 4.13, 後期 3.99)とほぼ同等の、概ね良好な結果であった。学生の立場から見て、学科で設定している科目群及び授業内容は概ね適切であると考えられる。

設問 11. 満足度

平均値が 4.06 で昨年度の平均値(前期 4.07, 後期 3.97)とほぼ同様の良好な結果であった。学生の立場から見て、学科で設定している科目群及び授業内容は概ね適切であると考えられる。

<<後期>>

1. 平成 24 年度後期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年
柏田雅徳	食品製造学	2
金松澄雄	ニュートリゲノミクス	3
山田光子	生理学	1
寺原典彦	食品分析学	1
外山英男	生物学Ⅱ	1
紺谷靖英	栄養学Ⅱ	3
中瀬昌之	食品学Ⅱ	2

教員 7 名 回答数 187

(参考)平成 23 年度前期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年
柏田雅徳	食品開発実習Ⅱ	3
山田光子	薬理学	3
寺原典彦	食品学実験Ⅰ	2
外山英男	フードスペシャリスト論	1
紺谷靖英	微生物学	1
中瀬昌之	食品科学概論	1

教員 6 名 回答数 139

(参考)平成 23 年度後期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年
柏田雅徳	食品開発実習Ⅰ	2
山田光子	生理学	1
寺原典彦	食品機能学	2
紺谷靖英	健康科学	2
中瀬昌之	食品学Ⅱ	2

教員 5 名 回答数 113

(参考)平成 24 年度前期 授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年
柏田雅徳	食品開発実習Ⅱ	3
山田光子	薬理学	3
寺原典彦	食品基礎実験	1
外山英男	フードスペシャリスト論	1
紺谷靖英	微生物学	1
中瀬昌之	農産物利用学	3

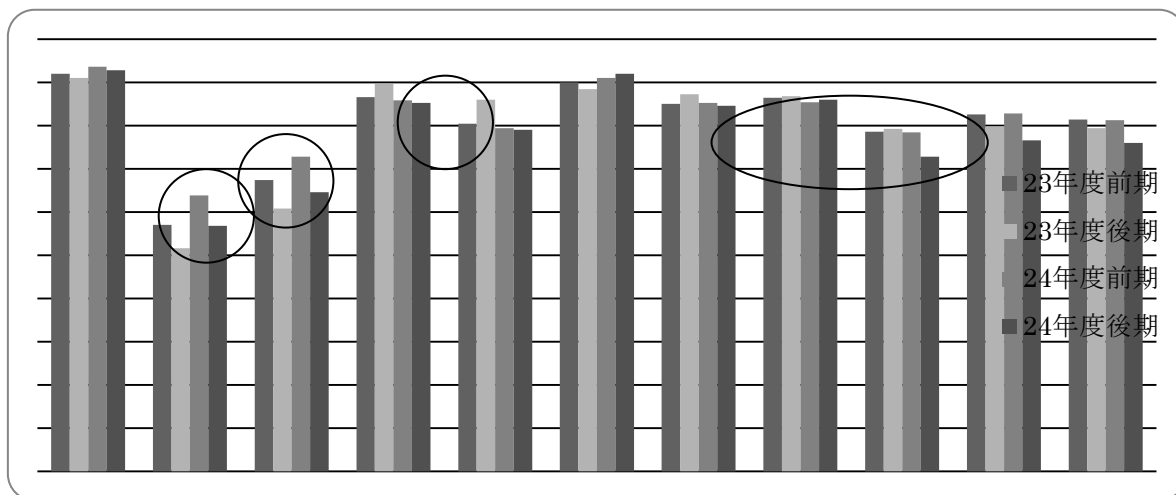
教員 6 名 回答数 156

2. 平成 24 年度後期 アンケート結果

設問番号	回答欄					回答数 (人)	平均値
	5	4	3	2	1		
①	132	44	10	1	0	187	4.64
②	14	21	96	34	22	187	2.84
③	21	44	86	26	9	186	3.23
④	86	68	28	5	0	187	4.26
⑤	74	50	45	16	2	187	3.95
⑥	126	48	13	0	0	187	4.60
⑦	84	70	24	7	1	186	4.23
⑧	86	73	26	2	0	187	4.30
⑨	30	78	64	12	3	187	3.64
⑩	52	72	49	8	6	187	3.83
⑪	44	72	61	9	1	187	3.80

(未回答 1)

(未回答 1)



各学期のアンケート結果

設問 1. 私はこの授業によく出席した。

平均値 4.64(23 年度後期 4.55, 24 年度前期 4.68)で概ね良好である。一方、回答番号 3 以下の割合が約 6%存在する。引き続き学科教員間で学生の出欠状況の情報共有を行い、早い段階で怠学者の抽出を行い、指導教員を中心に対応していくことが重要である。

設問 2. 私は授業内容について質問や発言をした。

平均値 2.84 で、これまでの授業評価アンケートの結果と同様に、設問中最も低い。24 年度前期には平均値が 3 を上回り改善傾向が見られていたが、今回は再び 23 年度までの平均値とほぼ等しくなった。理由としては、①今回からアンケート実施を講義科目のみに限定したことにより、学生の発言の機会が少なかったこと、②対象教員数が増加したこと、などが挙げられる。各教員が質問可能な時間帯を設けたり、学生が自主的に質問しやすい雰囲気作りをしたりするなど双方向性の授業形態に向けて努力していく必要がある。

設問 3. 私はこの科目に積極的に取り組んだ(予習や復習をした)。

平均値が 3.23 で 24 年度前期(3.64)を下回った。特に、回答番号 2 以下の割合が約 20%となっており、設問 2 と同様の理由が考えられる。より多くの学生に自学自習の習慣を身に付けさせるための具体的な指導を行うことが今後の課題である。

設問 4・5・6・7・8 は教員の授業実施方法に関する質問である。

平均値が 3.95－4.60 と概ね良好であり、同一科目が対象ではないが、昨年度の平均値をほぼ維持している。設問 5「教員の板書は見やすかった」に関しては、23 年度の後期にはかなり高い平均値が得られていたが(平均値 4.30)、回答番号 1 及び 2 の回答が約 10%あり、授業科目によっては改善が必要なケースがあると考えられる。

設問 9. 私はこの授業内容を理解できた。

平均値が 3.64 と前期までの平均値 (3.9 前後) と比較し低下した。回答番号 3 以下の回答が約 40% となっており、授業科目によっては学生にとって理解が困難な内容もあるかもしれないが、授業レベルを落とさずに学生の理解度を増すための教員側の努力が重要である。

設問 10. 将来役に立つと感じた。

平均値 3.83 であり、前期までの平均値 (4.0－4.1) より若干低下したものの、学生の立場から見て、学科で設定している科目群及び授業内容は概ね適切であると考えられる。

設問 11. 満足度

平均値が 3.80 で前期までの平均値 (4.0－4.1) より若干低下したものの、授業内容は概ね適切であると考えられる。学生の立場から見て、授業満足度が上がるように更なる努力が必要である。

【子ども教育学科】

＜＜前期および後期＞＞

□アンケート集計結果【前期:実施教員 12 名 回答数 473 名】

【後期:実施教員 13 名 回答数 669 名 】

■全項目(①～⑪)の平均値の年度ごとのデータ

(数字は、学科教員の平均値)

設 問 番号	質問内容	2012 年 度後期	2012 年 度前期	2011 後期	2011 前期	2010 後期
学生の授業取り組みに関する質問						
①	私はこの授業によく出席した	4.61	4.62	4.58	4.71	4.54
②	私は授業内容について質問や発言をした	3.46	3.22	3.64	3.19	3.01
③	私はこの科目に積極的に取り組んだ (予習や復習をした)	3.84	3.69	3.77	3.56	3.28
教員の授業実施方法に関する質問						
④	教員の声は聞き取りやすかった	4.21	4.12	4.32	3.94	3.99
⑤	教員の板書(または PPT・配布資料等) は読みやすかった(見やすかった)	4.16	3.85	3.96	3.67	3.69
⑥	教員は授業の開始・終了の時刻を守ろう としていた	4.42	4.40	4.42	4.29	4.05
⑦	教員は学生の反応を確かめながら授業を 進めていた	4.24	4.03	4.23	3.99	3.71
⑧	教員は熱意を持って授業をしていた	4.50	4.40	4.48	4.25	4.29
総合的評価						
⑨	私はこの授業内容を理解できた	4.16	3.97	4.04	3.78	3.60
⑩	私はこの授業で学んだ内容はなんらかの かたちで将来役に立つと感じた	4.48	4.38	4.37	4.19	4.11
⑪	私は総合的に判断してこの授業で満足が 得られた	4.29	4.21	4.15	3.99	3.73

■各項目の「特にそう思う」「多少そう思う」の占める割合（％）

設 問 番号	質問内容	2012 年 度後期	2012 年 度前期
学生の授業取り組みに関する質問			
①	私はこの授業によく出席した	92	92
②	私は授業内容について質問や発言をした	48	38
③	私はこの科目に積極的に取り組んだ (予習や復習をした)	67	60
教員の授業実施方法に関する質問			
④	教員の声は聞き取りやすかった	77	76
⑤	教員の板書(または PPT・配布資料等) は読みやすかった(見やすかった)	76	64
⑥	教員は授業の開始・終了の時刻を守ろう としていた	84	87
⑦	教員は学生の反応を確かめながら授業を 進めていた	78	71
⑧	教員は熱意を持って授業をしていた	89	86
総合的評価			
⑨	私はこの授業内容を理解できた	80	74
⑩	私はこの授業で学んだ内容はなんらかの かたちで将来役に立つと感じた	88	86
⑪	私は総合的に判断してこの授業で満足が 得られた	82	83

□アンケート結果の分析

[前期]

●年度比較から見てくること

・今回のアンケートは、2011 年度前期実施した学年・科目とほぼ同一と考えられる。よって 2011 年度前期と比較する時、①を除いて全項目で、平均値がアップしている。総じて、授業改善の成果と言えよう。

・2011 年度後期との比較においては、今回は①、⑩、⑪以外は平均値がダウンしている。特に 1 生前期における、学生の「授業評価力」の問題とも関係している面もあるのではないか、と思われる。更に検討してみる必要があろう。

●各項目の「特にそう思う」「多少そう思う」の占める割合から見てくること

・学生の授業取り組みに関しては、「授業によく出席した」学生が 92%と極めて良好であるのに対して、授業への参加度は、「質問や発言」が 38%、「予習や復習」が 60%である。とくに学生が能動的に参加する授業のあり方を工夫していく必要があろう。

・教員の授業実施方法に関しては、「授業の開始・終了時刻を守る」87%、「熱意を持って授業」86%、「教員の声は聞き取りやすかった」76%、「学生の反応を確かめながら授業」71%と、これらについては比較的良好な評価であったが、「板書(PPT・資料)は読みやすかった」64%は 6 割台であり、引き続き改善課題と言えよう。

・総合的評価では、「将来役立つ」が最も高く86%、「満足」が83%、「理解」74%となっており、総じて良好な結果であった。2011 年度後期の結果はそれぞれ 85%、79%、76%であった。「総合的に判断してこの授業で満足が得られた」が昨年度後期に比してアップしており、教員の熱意ある授業への取り組みや授業改善の努力の成果と言えよう。他方「役立つ」「満足」と「授業内容の理解」の間にあるギャップをどうみるのかについては、今後検討していきたいと思う。

[後期]

●年度及び前後期の比較から見てくること

2011 年度後期と比較する時、②④を除く項目すべてにおいて平均値がアップしている。また、2012 年度前期と比較すると、①以外の全項目で平均値のアップが見られた。総じて、授業改善の成果と言えよう。

●各項目の「特にそう思う」「多少そう思う」の占める割合から見てくること

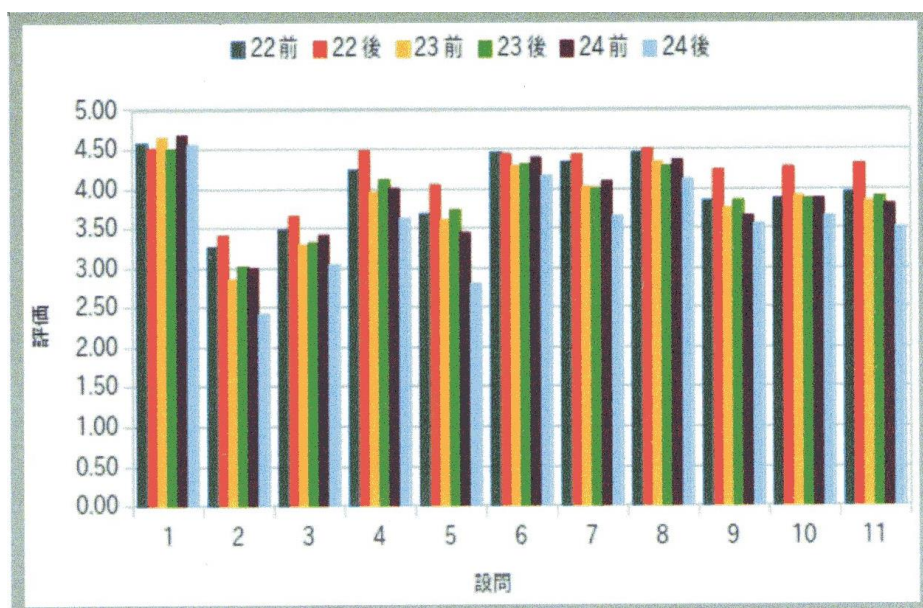
・学生の授業取り組みに関しては、前期と比較して、「質問や発言」が 38%→48%、「予習や復習」が 60%→67%とアップしており、学生の授業への積極性・能動性が徐々に増してきている。大学における授業へ臨む姿勢が前期に比べ身についてきた結果ともいえよう。

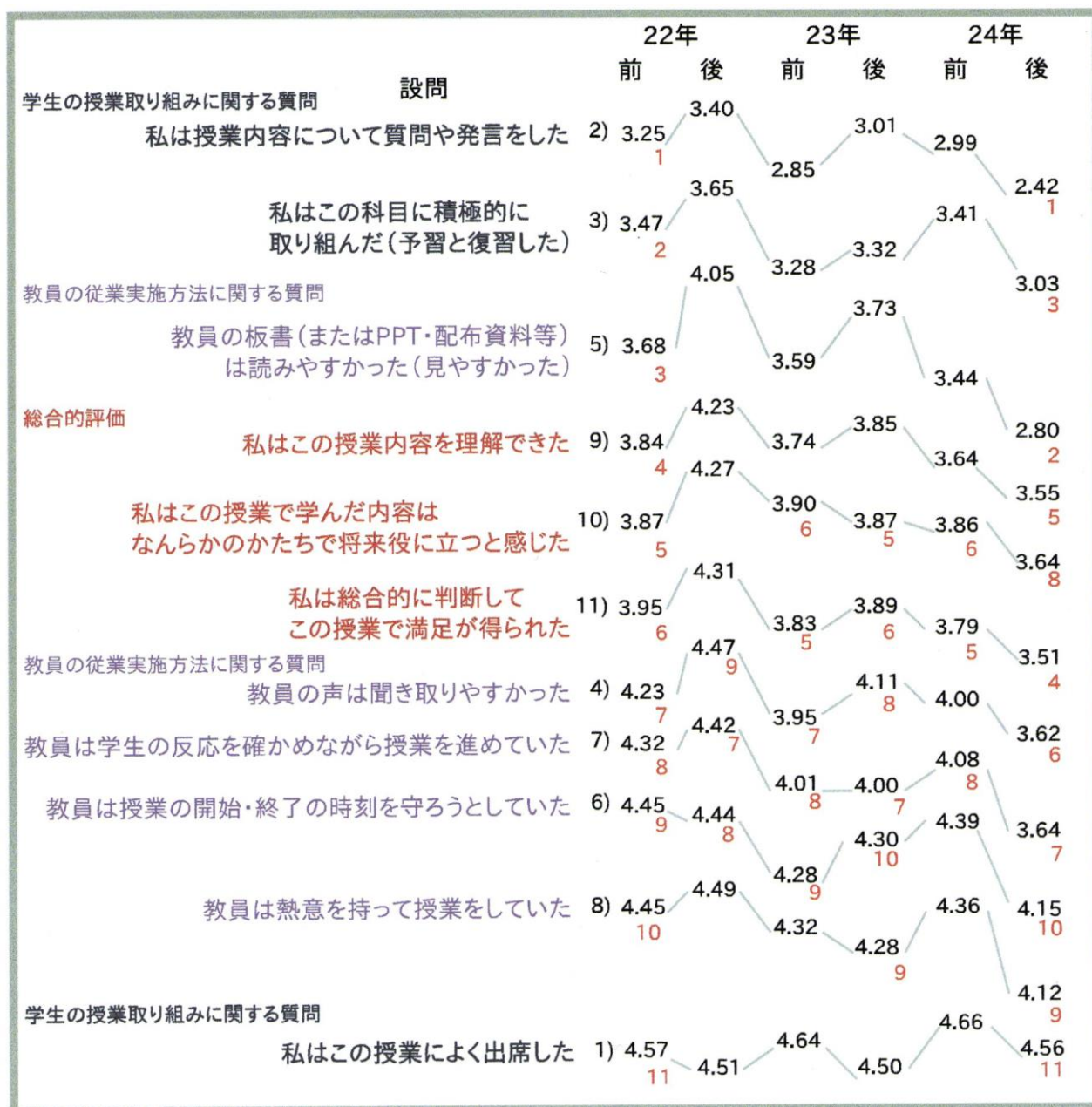
・教員の授業実施方法に関しては、「授業の開始・終了時刻を守る」以外の項目、すなわち「熱意を持って授業」86%→89%、「学生の反応を確かめながら授業」71%→78%、「教員の声は聞き取りやすかった」76%→77%、「板書(PPT・資料)は読みやすかった」64%→76%、これらは全て前期に比べアップしている。とりわけ前期 6 割台であり改善課題であった「板書」が 7 割台に上昇しており、教員の意識的な改善姿勢があったことがうかがえる。

・総合的評価では、「将来役立つ」が最も高く88%、「満足」が82%、「理解」80%となっており、総じて良好な結果であった。特に「理解」が前期に比べ 6 ポイントアップして 8 割台となったことは、教員の「わかる授業」への努力の成果と言えよう。

【教養・教職センター】

＜＜前期および後期＞＞





教職・教養センターのFD についての話し合いでアンケート集計結果の上記データをたたき台として話し合った。過去のデータと比較して、本年度のアンケート集計結果が下がっているように見える。先生の質が変わったのか、学生の質が影響しているのか、学生が何を期待しているか、学生の期待やコメントをどう対応するかなどの検討を行った。また以前のFD 推進委員会の会議で環境園芸学科のアンケート結果で教養科目の価値があまり評価されていないという話があった。教養科目を評価するのに必要な価値観をどんな形の質問ですべきかなど幅広く教養の意味と価値の検討をした。その中で、多人数で受講している語学の講義をクラス分けして実施する必要があるか、さらにどう結果を解釈して対策に取り組むか、については今後再度検討する必要があるという結論になった。次年度以降に再検討を行う。

5. 後期参観授業報告

平成 24 年度においても、教員の授業の教授法改善等を目的として、後期に参観授業を実施した。

実施要領を以下に示す。

後期参観授業実施要領

目的

教員の授業の教授法改善等を目的として実施する。

対象授業

環境園芸学科、管理栄養学科、食品開発学科、子ども教育学科、教養教職センター所属の専任教員が担当する授業のうち、参観を希望する教員の授業（各学科 2 授業以上（ただし構成員の少ない教・教センターは 1 授業以上））

対象の授業一覧

対象教員所属	対象教員	対象授業	対象授業日時	対象授業教室
環境園芸学科	永松 義博 先生	造形デザイン演習 (予定が合わず中止)	12 月 7 日 (金) 1 限	都：1101 教室
	北村 泰一 先生	水辺環境論	12 月 12 日 (水) 2 限	都：1103 教室
	平岡 直樹 先生	都市計画論	12 月 14 日 (金) 1 限	都：1205 教室
管理栄養学科	伊藤 薫 先生	からだと栄養 II	12 月 17 日 (月) 2 限	宮：3202 教室
	小川 恒夫 先生	からだと疾病 II	12 月 17 日 (月) 3 限	宮：3202 教室
食品開発学科	紺谷 靖英 先生	栄養学 II	12 月 17 日 (月) 3 限	宮：1403 教室
	中瀬 昌之 先生	食物アレルギー論	12 月 13 日 (木) 1 限	宮：1411 教室
子ども教育学科	古賀 隆一 先生	保育内容指導法 (造形表現)	12 月 14 日 (金) 2 限	都：図画工作室
	内田 芳夫 先生	発達心理学 I	12 月 17 日 (月) 4 限	都：1205 教室
教養・教職センター	西村 盛正 先生	体育実技	12 月 14 日 (金) 4 限	都：体育館

* 対象となった授業への参加は所属の学科・キャンパスを問わず参加できるものとする。
また事務職員、短大教員も参加可能として、広く公開する。

実施手順

- 実施期間内にて対象授業の参観を実施する。
- 参観者は教室内で対象授業の参観を行い、参観レポート（添付資料）を記入する。
（当該レポートの様式は、後日メールにて配布する。参観を希望する教員は自身で印刷して参観に参加する。（印刷されたものも、後日配布予定の当該事業のチラシに添付する予定にしている））
- 参観は業務等の関係もあるので教員への参加強制はしないが、できるだけ多くの教員に参加してもらう。
- 参観レポートは参観授業対象の先生へ提出する。

後期参観授業に用いた様式

後期参観授業の結果の詳細については、本学のユニークな学科構成を考慮して、学科・センター別に以下に結果を示す。

様式①ー参観レポート

平成 24 年度後期参観授業
参観レポート

授業を参観して参考になった点等をお書きください

対象教員に対して何かご意見がありましたらお書きください

【環境園芸学科】

参観授業として2授業開催した。参加者数は各授業1名と極めて少なかった。前回の参観授業への参加者からは有意義な刺激を受けたとの印象が伝えられていたが、参加者が少なく貴重なFDの機会が活かされていない。参観の機会を促すため開催数を増やすことも考えられる。

表 平成24年度 環境園芸学科参観授業と参加者数

担当教員名	参観授業名	実施日時	参加人数
北村 泰一	水 辺 環 境 論	12月12日(水)2時間目	1名
平岡 直樹	都 市 計 画 論	12月14日(金)1時間目	1名

【管理栄養学科】

(対象授業)

授業①：伊藤 薫 教授 12月17日(月)2限 宮崎 C-3202 教室 からだと栄養Ⅱ

授業②：小川 恒夫 教授 12月17日(月)3限 宮崎 C-3202 教室 からだと疾病Ⅱ

(参観者)

授業①：3名(短大横堀仁志准教授，事務局総務課猶原みどり係長，管理栄養学科朝見祐也准教授)

授業②：5名(管理栄養学科田代晶子教授，管理栄養学科竹之山愼一准教授，事務局総務課赤木裕美課長，事務局企画広報課黒木博昭課長，管理栄養学科朝見祐也准教授)

(課題)

- ・ 例年管理栄養学科では，参観者が1授業につき，2名ほどしか参観者がいなかったが，今回は多くの参観者に参加いただいた。
- ・ 管理栄養学科以外の方々(短大・事務局)からの参加も多数であった。
- ・ 次年度以降も，教授会・学科会議等を用いて，参加促進を図る必要がある。
- ・ 参加いただいた先生，参観授業を公開いただいた先生ともに，自身の授業を見直す機会となり，今後も継続して実施する必要がある。
- ・ 参観をする授業の時間について，多くの参加者が見込める時間設定も必要になるかもしれない。

【食品健康学科】

(1)対象授業

2名の教員が担当する下記科目を授業参観対象科目として実施した。

日時	授業科目	担当教員	参観者	
12月13日(木) 1 講時	食物アレルギー論	中瀬	3 名	管理栄養学科 小川教授
				総務課 桑水流課員
				企画広報課 戸高課員
12月17日(月) 3 講時	栄養学Ⅱ	紺谷	1 名	企画広報課 戸高課員

(2) 参観結果

上表の通り、参観者は対象 2 科目で延べ 4 名であった。学科内で参観授業の実施について何度か通知したにもかかわらず、これまでと同様に参観者が少ない結果となった。他教員の授業を参観することに対する教員の意識の低さは変化していないようである。授業参観は、授業実施教員の改善につながる可能性のみではなく、参観者にとっても、自身の授業改善に対する意識を必要に応じて高めることにもつながると考えられる。今後は、参観義務化の必要性の有無を検討することも選択肢の一つであろう。

【子ども教育学科】

本学科では下記のように2名の教員による参観授業が実施された。

- ・12月14日(金) 3 限目 古賀隆一教授「保育内容指導法(造形表現)」 参観者1名
- ・12月17日(月) 4 限目 内田芳夫教授「発達心理学」 参観者4名

昨年同様、ベテラン教員2名に授業をご担当いただいた。両教員の授業とも丁寧なレジュメが準備されかつ術語を補足説明する等学生への配慮がうかがえた。授業の進行の中で双方向コミュニケーションを活用し、学生のモチベーション向上を企図している点について学ぶところ大であった。また、授業の基調に学生の多角的視点・理論的思考力の育成の形成が志向されていることが示唆されていた。

【教養・教職センター】

教養教職センターの参観授業は 12 月 14 日(金)4 限の体育実技(西村盛正先生)であった。参加者は一人。

西村盛正先生と学生の交流やその教え方を見て参考になった。滅多に元気な姿を見せない学生も体育館では非常に元気な様子を見せた。また座学授業では自信がありそうな学生は体育館ではそんなに自信がなさそうに見えて興味深かった。余裕を作って座学授業でもいろいろな関わり方の機会を作るべきだと感じた。

6. FD 講演会報告

FD 推進委員会では、平成 22 年度から大学での FD 活動の推進などを目的に FD 講演会を実施してきている。平成 24 年度も 1 回の実施があり、多くの教職員が参加し充実した講演会となった。講演会の概要およびアンケートの結果について以下に記録しておく。

- **日時：**平成 24 年 9 月 27 日（木）14 時 00 分～16 時 00 分
- **会場：**宮崎キャンパス本館 2 階会議室/都城キャンパス本館 2 階多目的会議室
- **講演タイトル：**「ティーチング・ポートフォリオ（TP）の導入・活用について」
- **講師：**大学評価・学位授与機構 研究開発部 准教授 栗田 佳代子 先生
- **参加人数：**36 人 【宮崎キャンパス 18 人/都城キャンパス 18 人】

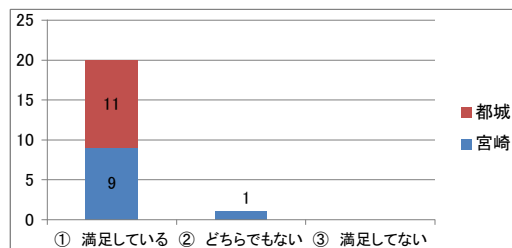
TP とは、大学等の教員が自分の授業や指導において投じた教育努力の少なくとも一部を、目に見える形で自分および第三者に伝えるために効率的・効果的に記録に残そうとする「教育業績ファイル」、もしくはそれを作成するに於ける技術や概念および、場合によっては運動を意味する。TP の導入により、将来の授業の向上と改善、根拠の提示による教育活動の正当な評価、優れた熱心な指導の共有などの効果が認められる等の効果があると言われている。（2008 年 12 月 24 日中央教育審議会（答申）「学士課程教育の構築に向けて」より）この講演では、講師の栗田先生より、TP とはどのようなものか、から TP の実践例とうについてご講演いただいた。さらには、ミニ TP として、実際の TP の作業を簡単に体験することもできた。TP の手法は各先生方でご理解いただき、今後の教育活動に役立てていただければと考えている。この TP は大学で組織的に実施していくこともできるが、まずはこの講演会を聴講して、その中で興味をもたれた先生方が個人単位で実施していくだけでもよいかと考えている。個人単位の TP の活動が大きくなってくれば、大学の FD 活動の組織的な活動の事業の 1 つとして実施していくことも可能かと考えている。

《アンケート結果について》

回答数 21 人【宮崎:10 人／都城 11 人】

〈質問1〉 本講演を聴講し、満足しましたか？

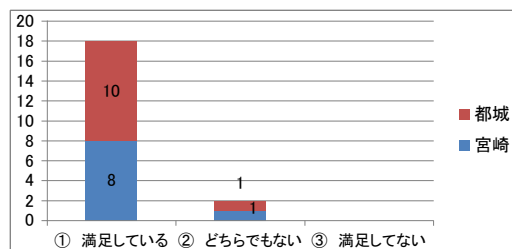
	宮崎	都城	合計
① 満足している	9	11	20
② どちらでもない	1		1
③ 満足してない			



〈質問2〉 本講演の内容は、理解できましたか？

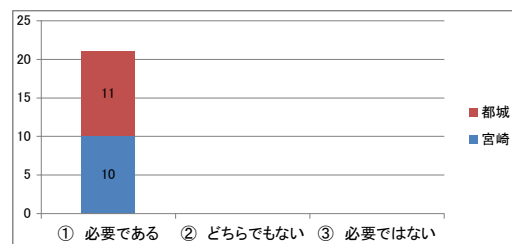
	宮崎	都城	合計
① 満足している	8	10	18
② どちらでもない	1	1	2
③ 満足してない			

回答なし1人



〈質問3〉 本講演のような、FD活動に関する講演は、今後も必要だと思いますか？

	宮崎	都城	合計
① 必要である	10	11	21
② どちらでもない			
③ 必要ではない			



〈質問4〉 今回のようなFD講演会を今後も開催するとすれば、どのような次期でどのような内容を、期待されますか？

時期 * 9月。

- * 夏休み等学生の長期休業中でない次期。少しでも多くの教職員が参加しやすいように。
- * この時期で良い。(同意見他7名)
- * 教育担当者(教員)対象であれば、夏期休暇最終日近くがよいと思います。学生が少ない時期。9月末。
- * 9月末は、参加するには厳しいのではないかな？

内容 * 教員の資質向上に役立つ内容。

- * このような機会をいただけたことは幸いでした。くり返し参加し、今後の(教員としての)活動に生かしたいと思います。
- * 教育方法(授業の実施方法)に関する内容。いろいろなパターンを知る機会があるとよい。自分の授業の参考になる。
- * 授業づくりに関して。
- * パワーポイントの活用など、多様な指導方法について。
- * 学生への指導に関わる内容。
- * 同列の大学で学生募集がうまくいってるところから、教育全般について教えてもらいたい。

〈質問5〉 その他、ご意見・感想がございましたら、お書きください。

- * 参加者が少ないのが残念であった。(宮崎C)
- * リフレクション、ふりかえり、具体化することには大変大きな意義を感じました。ありがとうございました。
- * もう少しゆっくりプレゼンしていただけるとよかったです。・・・ 質問2の欄外に記入
- * ミニワークショップは理解不足でした。・・・ 質問2の欄外に記入

7. 魅力度・満足度調査

平成 24 年度からの新規事業として「新入生魅力度調査・卒業生満足度調査」を実施した。この事業は平成 23 年度から準備に取りかかり、本年度から実施とした。まずは実施の実施要領を以下に示す。

平成 24 年度新入生魅力度調査および卒業生満足度調査の実施要領

目的

本調査は、魅力ある大学づくりのための情報を収集するために実施する。新入生対象の調査では、本学のどのような点に魅力を感じ入学してくるのか、卒業生対象の調査では、本学のどのような点で満足を感じ（あるいは不満を感じ）卒業していくか、をアンケートにより調査する。本事業で出た結果は、各学科における教育活動および研究活動のみならず、広報活動にも利用でき、また学園の運営の方向性を示すための参考になる。

実施時期

新入生魅力度調査： 7 月中

卒業生満足度調査： 11 月中

（アンケート配布・回収は各学科 FD 推進委員を中心に担当）

集計作業

- 集計作業は外部委託とする。
- 授業評価アンケートと同様に学科別の集計結果を出す。学科会議等で結果を分析し、結果から見えてくる課題を抽出し、課題の改善策を検討する。
- 4 年後には魅力度と満足度とのギャップを集計し、上記同様に学科単位で問題点抽出と課題解決策を検討する。

アンケートの内容

****注意****

教育研究に関する設問の⑥番以降の設問については学科別設問とする。以下に管理栄養学科以外の学科の設問を示す（魅力度調査の設問を示す。満足度調査の場合は「魅力を感じていますか」が「満足しましたか」になる。なお、食品開発科学科の満足度調査では学科名が「食品健康学科」となる。）。

アンケート結果の分析については、本学のユニークな学科構成を考慮して、学科・センター別に分析を行った。以下に学科・センター別に分析した結果を示す。

平成 24 年度新入生魅力度調査アンケート

南九州大学 FD 推進委員会

新入生のみなさん。南九州大学へのご入学おめでとうございます。南九州大学では、よりよい魅力ある大学づくりのため、新入生のみなさんに「魅力度調査」のお願いをしております。以下の設問に回答いただき、よりよい魅力ある大学づくりのご協力をお願いいたします。

設問の回答はすべて 5 択式になっています。該当する選択肢の番号に○印をつけて回答して下さい。

【教育研究に対する設問】

- ① あなたは南九州大学の「豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境」で勉学に励めることをどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ② あなたは南九州大学の「創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成する」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ③ あなたは南九州大学の「食・緑・人に関する基礎的、応用的研究をすすめ、専門的分野において社会に貢献寄与できる人材を育成している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ④ あなたは南九州大学の「優れた教育研究業績をもつ、あるいは優れた現場経験をもつなど、高い能力をもった教員による教育を受けることができる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑤ あなたは南九州大学の「優れた研究環境のもと最先端の研究ができる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑥ あなたは管理栄養学科の「人生観，世界観を考える社会性と人間性を備えた教養豊かで健康な専門職業人の育成を目指している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑦ あなたは管理栄養学科の「将来，保健・医療・福祉・介護，および栄養教育の分野で専門的知識や技術を持ち，地域住民の生活の質の向上に貢献できる応用実践力があり，かつ視野の広い管理栄養士を育成する」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑧ あなたは管理栄養学科の「栄養士および管理栄養士国家試験受験資格を取得できる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑨ あなたは管理栄養学科の「栄養教諭 1 種免許を取得できる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑩ あなたは管理栄養学科の「管理栄養士・栄養士の活躍する現場で職業体験ができる“臨地・校外実習”をカリキュラムに組み込んでいる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑪ あなたは管理栄養学科の「医療機関や行政などの現場をよく知る教授陣によって，豊富な知識と実践技術が学べる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑫ あなたは管理栄養学科の「地元宮崎に貢献できる管理栄養士の人材育成をしている」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑬ あなたは管理栄養学科の「チーム医療に参画できる臨床栄養のスペシャリストとして，高度な専門知識・技能を習得できる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑭ あなたは管理栄養学科の「管理栄養士国家試験合格に向けた支援が充実していて、合格率 100%を目指している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑮ あなたは管理栄養学科の「栄養学の基礎から応用までの充実した研究を行っている研究室を多数有している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

【就職支援に対する質問】

- ① あなたは南九州大学の「“就職課”があり、当該課の専門スタッフが就職活動支援をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ② あなた南九州大学の「将来の進路に関してのセミナー・ガイダンスや公務員・教員就職のための講座が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ③ あなたは南九州大学の「地元へのUターン就職に対して全力でサポートしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ④ あなたは南九州大学の「各学科に関連する業界の求人情報を多く扱っている」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑤ あなたは南九州大学の「インターンシップ制度が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

【学習・生活支援に対する質問】

- ① あなたは南九州大学の「“学生支援課”があり当該課の専門スタッフが学習支援（各種証明書発行・休講時連絡・アルバイト情報等）をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ② あなたは南九州大学の「充実した蔵書・雑誌・新聞・視聴覚機器・閲覧スペース等のある図書館があり、学生の学習支援に役立っている」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ③ あなたは南九州大学の「“保健室・学生相談室”があり、当該室の専門スタッフが怪我・体調不良の治療や体調管理等に関する相談、大学生活に関しての悩み相談をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ④ あなたは南九州大学の「“生協売店・生協食堂”があり、学生生活の支援充実をはかっている」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑤ あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の斡旋がある」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑥ あなたは南九州大学の「課外活動（部活動、学友会、学祭実行委員会等）が充実していて楽しく思い出に残る学生生活が送れる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑦ あなたは南九州大学の「毎年有意義な学校行事（大学祭等）が行われている」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑧ あなたは南九州大学の「充実した奨学金・特待生制度がある」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑨ あなたは南九州大学の「各学年の教員による担任制度があり、学習支援・学生生活支援をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

【施設・設備に対する質問】

- ① あなたは南九州大学の「最先端の機器を導入した実験室や実際の現場を想定した実習室（フィールドセンターを含む）が整備されている」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ② あなたは南九州大学の「インターネット環境が充実し整っている（学内 LAN の充実、情報処理室の充実等）」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ③ あなたは南九州大学の「清潔で機能的で、また快適な校舎で学生生活が送れる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ④ あなたは南九州大学の「通学に関して、スクールバスの運行や広い駐車・駐輪場を有しており、通学に便利である」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑤ あなたは南九州大学の「体育館・グラウンドなどの運動施設やサークル活動の支援施設（クラブハウス）が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑥ あなたは南九州大学の「休憩時間中にすごせる憩いの場（食堂・中庭・学生ラウンジ等）が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

平成 24 年度卒業生満足度調査アンケート

南九州大学 FD 推進委員会

卒業生のみなさん。南九州大学へのご卒業おめでとうございます。南九州大学では、よりよい魅力ある大学づくりのため、卒業生のみなさんに「満足度調査」のお願いをしております。以下の設問に回答いただき、よりよい魅力ある大学づくりのご協力をお願いいたします。

設問の回答はすべて 5 択式になっています。該当する選択肢の番号に○印をつけて回答して下さい。

【教育研究に対する設問】

- ① あなたは南九州大学の「豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境」で勉学に励めることをどの程度満足しましたか。

5:特に満足している	4:多少満足している	3:どちらでもない
2:あまり満足していない	1:まったく満足していない	

- ② あなたは南九州大学の「創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成する」点にどの程度魅力を満足しましたか。

5:特に満足している	4:多少満足している	3:どちらでもない
2:あまり満足していない	1:まったく満足していない	

- ③ あなたは南九州大学の「食・緑・人に関する基礎的、応用的研究をすすめ、専門的分野において社会に貢献寄与できる人材を育成している」点にどの程度満足しましたか。

5:特に満足している	4:多少満足している	3:どちらでもない
2:あまり満足していない	1:まったく満足していない	

- ④ あなたは南九州大学の「優れた教育研究業績をもつ、あるいは優れた現場経験をもつなど、高い能力をもった教員による教育を受けることができる」点にどの程度満足しましたか。

5:特に満足している	4:多少満足している	3:どちらでもない
2:あまり満足していない	1:まったく満足していない	

- ⑤ あなたは南九州大学の「優れた研究環境のもと最先端の研究ができる」点にどの程度満足しましたか。

5:特に満足している	4:多少満足している	3:どちらでもない
2:あまり満足していない	1:まったく満足していない	

- ⑥ あなたは管理栄養学科の「人生観，世界観を考える社会性と人間性を備えた教養豊かで健康な専門職業人の育成を目指している」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑦ あなたは管理栄養学科の「将来，保健・医療・福祉・介護，および栄養教育の分野で専門的知識や技術を持ち，地域住民の生活の質の向上に貢献できる応用実践力があり，かつ視野の広い管理栄養士を育成する」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑧ あなたは管理栄養学科の「栄養士および管理栄養士国家試験受験資格を取得できる」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑨ あなたは管理栄養学科の「栄養教諭 1 種免許を取得できる」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に魅力を感じている	4: 多少魅力を感じている	3: どちらでもない
2: あまり魅力を感じない	1: まったく魅力を感じていない	

- ⑩ あなたは管理栄養学科の「管理栄養士・栄養士の活躍する現場で職業体験ができる“臨地・校外実習”をカリキュラムに組み込んでいる」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑪ あなたは管理栄養学科の「医療機関や行政などの現場をよく知る教授陣によって，豊富な知識と実践技術が学べる」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑫ あなたは管理栄養学科の「地元宮崎に貢献できる管理栄養士の人材育成をしている」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑬ あなたは管理栄養学科の「チーム医療に参画できる臨床栄養のスペシャリストとして，高度な専門知識・技能を習得できる」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑭ あなたは管理栄養学科の「管理栄養士国家試験合格に向けた支援が充実していて、合格率 100%を目指している」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑮ あなたは管理栄養学科の「栄養学の基礎から応用までの充実した研究を行っている研究室を多数有している」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

【就職支援に対する設問】

- ① あなたは南九州大学の「“就職課”があり、当該課の専門スタッフが就職活動支援をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ② あなた南九州大学の「将来の進路に関してのセミナー・ガイダンスや公務員・教員就職のための講座が充実している」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ③ あなたは南九州大学の「地元への U ターン就職に対して全力でサポートしてくれる」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ④ あなたは南九州大学の「各学科に関連する業界の求人情報を多く扱っている」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑤ あなたは南九州大学の「インターンシップ制度が充実している」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

【学習・生活支援に対する設問】

- ① あなたは南九州大学の「“学生支援課”があり当該課の専門スタッフが学習支援（各種証明書発行・休講時連絡・アルバイト情報等）をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ② あなたは南九州大学の「充実した蔵書・雑誌・新聞・視聴覚機器・閲覧スペース等のある図書館があり、学生の学習支援に役立っている」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ③ あなたは南九州大学の「“保健室・学生相談室”があり、当該室の専門スタッフが怪我・体調不良の治療や体調管理等に関する相談、大学生活に関しての悩み相談をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ④ あなたは南九州大学の「“生協売店・生協食堂”があり、学生生活の支援充実をはかってくれている」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑤ あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の斡旋がある」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑥ あなたは南九州大学の「課外活動（部活動、学友会、学祭実行委員会等）が充実していて楽しく思い出に残る学生生活を送れる」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑦ あなたは南九州大学の「毎年有意義な学校行事（大学祭等）が行われている」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑧ あなたは南九州大学の「充実した奨学金・特待生制度がある」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑨ あなたは南九州大学の「各学年の教員による担任制度があり、学習支援・学生生活支援をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

【施設・設備に対する設問】

- ① あなたは南九州大学の「最先端の機器を導入した実験室や実際の現場を想定した実習室（フィールドセンターを含む）が整備されている」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ② あなたは南九州大学の「インターネット環境が充実し整っている（学内 LAN の充実、情報処理室の充実等）」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ③ あなたは南九州大学の「清潔で機能的で、また快適な校舎で学生生活が送れる」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ④ あなたは南九州大学の「通学に関して、スクールバスの運行や広い駐車・駐輪場を有しており、通学に便利である」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑤ あなたは南九州大学の「体育館・グラウンドなどの運動施設やサークル活動の支援施設（クラブハウス）が充実している」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

- ⑥ あなたは南九州大学の「休憩時間中にすごせる憩いの場（食堂・中庭・学生ラウンジ等）が充実している」点にどの程度満足しましたか。

5: 特に満足している	4: 多少満足している	3: どちらでもない
2: あまり満足していない	1: まったく満足していない	

【注】各学科の設問について

＜環境園芸学科＞

- ①あなたは環境園芸学科が、「環境」を基礎に置きつつ、「緑，食，人」をキーワードとして教育を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。
- ②あなたは環境園芸学科が，附属の実験施設やフィールドセンター等を活用した実学教育と少人数教育を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。
- ③あなたは環境園芸学科が，6つの専攻（園芸生産環境，植物バイオ・育種，花・ガーデニング，造園緑地，自然環境，アグリビジネス）を設けていることにどの程度魅力を感じていますか。
- ④あなたは環境園芸学科が，1年次に人間性と社会性豊かな教養を身につけるための「教養教育科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。
- ⑤あなたは環境園芸学科が，1年次に農学の分野の専門職業人として必要とされる基礎的な知識と技術を身につけるための「専門基礎科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。
- ⑥あなたは環境園芸学科が，専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために「専門教育科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。
- ⑦あなたは環境園芸学科が，幅広い知識を身につけるために，自分が目指す専門分野を超えて関心のある科目を履修できるように「専門選択科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。
- ⑧あなたは環境園芸学科が，講義に加えて，演習や実験，実習の専門授業を数多く設置していることにどの程度魅力を感じていますか。
- ⑨あなたは環境園芸学科が，3年次後期に全員の研究室配属を行い，身につけた知識や技術を駆使して，新たな問題の探求能力や解決能力を養成するカリキュラムを取っていることにどの程度魅力を感じていますか。
- ⑩あなたは環境園芸学科が，4年次で卒業論文を学科の必須として，専門性を高めることとしていることにどの程度魅力を感じていますか。
- ⑪あなたは環境園芸学科が，教員免許，学芸員免許，樹木医補，測量士補などの資格や免許の取得に対応した「専門選択科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。

＜食品開発科学科＞

- ①あなたは食品開発科学科が，食品製造者と消費者の両方の視点，および食に関する科学的知識と倫理を身につけた食品のスペシャリストを養成するための教育・研究を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。
- ②あなたは食品開発科学科が，食品の開発・製造（美味しくつくること）に携わる専門家を育成するための教育・研究を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。
- ③あなたは食品開発科学科が，食品の適正利用（正しく食えること）の専門家を育成する目的で教育・研究を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。
- ④あなたは食品開発科学科が，食品の衛生（安全を守る）・機能性（体調調節）の専門家を育成するための教育・研究を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。
- ⑤あなたは食品開発科学科が，講義に加えて，実験・実習・学外インターンシップなどの授業を多く設置

し、実践的能力を身につけるための教育を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。

- ⑥あなたは食品開発科学科において、フードサイエンスの基礎科目から食品の衛生・機能性に関する基幹科目、食品の開発・製造および食品の適正利用に関する実学科目に至るまで体系的に組まれたカリキュラムに従って履修できることに、どの程度魅力を感じていますか。
- ⑦あなたは食品開発科学科において、1～3 年次に学んだ食品開発および食品利用のあり方を集約して、4 年次に卒業論文、専攻演習に取り組むことができることにどの程度魅力を感じていますか。
- ⑧あなたは食品開発科学科において、食品衛生管理者・食品衛生監視員の資格を取得できることにどの程度魅力を感じていますか。
- ⑨あなたは食品開発科学科において、高等学校教諭 1 種(農業・理科)、中学校教諭 1 種(理科)の資格を取得できることにどの程度魅力を感じていますか。
- ⑩あなたは食品開発科学科において、フードスペシャリスト、健康食品管理士を始め、他の食品関連資格を取得できることにどの程度魅力を感じていますか。

<子ども教育学科>

- ①あなたは、「人の育ちと地域の育ちを支援する専門家」を育てるという子ども教育学科の方針にどの程度魅力を感じていますか。
- ②あなたは、子ども教育学科の4年生大学ならではの実践的で充実したカリキュラムのもと、保育士資格、幼稚園教諭一種免許、小学校教諭一種免許の三つの資格・免許を同時に取得できることにどの程度魅力を感じていますか。
- ③あなたは、子ども教育学科の小学校・幼稚園とつながって、恒常的に現場で学ぶことができる連携学校園方式を採用している点にどの程度魅力を感じていますか。
- ④あなたは、子ども教育学科が掲げる「子どもの心身」「地域と子ども」「自然環境」という学びの3つの特色にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑤あなたは、子ども教育学科の4年間の学びを教員がきめ細かにサポートする、ホーム制や1 年次後期から始まる少人数のゼミについてどの程度魅力を感じていますか。
- ⑥あなたは、子ども教育学科のボランティア活動など、実践的に地域活動へ参加し、子どもとの関わりや地域との関わりを学ぶ「子ども支援地域活動」という独自の科目にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑦あなたは、子ども教育学科の学生一人ひとりの学習意欲の向上や科目履修計画作成に役立つようにGPA制度という成績評価システムを採用し、年間表彰も行っている点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑧あなたは、子ども教育学科の脈絡なく単位をとることなく、しっかり学習ができるよう年間取得単位を制限するCAP制を導入していることにどの程度魅力を感じていますか。
- ⑨あなたは、子ども教育学科が「子どもの学び研究所」「子育て支援センター」「環境教育センター」という、学外に開かれた3つの活動拠点を有している点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑩あなたは、子ども教育学科の「夢を叶える塾」での就職試験対策など、手厚い進路サポートがあることにどの程度魅力を感じていますか。

【環境園芸学科】

<<新入生魅力度調査>>

[教育研究に対する設問]

①～⑯までの質問 16 問中、質問⑨および⑮を除く 14 問は 70%以上の学生が魅力を感じていることが分かった。

質問⑨あなたは環境園芸学科が、1 年次に人間性と社会性豊かな教養を身につけるための「教養教育科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。

→ 58%

- ・現在、検討中の就職に関わる科目（キャリアガイダンス:仮称）や社会人として必要な事項を学ぶ科目の充実を加えて、「教養教育科目」の重要性や位置づけの理解を深める努力も必要であると思われる。

質問⑮あなたは環境園芸学科が、4 年次で卒業論文を学科の必須として、専門性を高めることとしていくことにどの程度魅力を感じていますか。

→ 63%

- ・卒業論文の意義や内容についてまだ理解していない新入生も多数いると考えられる。オリエンテーションにおける説明や第 1 期卒業生の卒論要旨集の提示などにより理解を高められると考えられる。

[就職支援に対する質問]

①～⑤までの全質問で魅力度 70%前後の結果が得られているが、現時点での就職の取り組みはほとんど行っていないと考えられる。卒業生満足度調査では就職支援について不足傾向にあるとの回答をした学生が多く見られた。新入生に対してどのような支援をしているか、できるかを周知と現在の支援活動を維持し、改善のため学生の意見の把握が必要であると思われる。

[学習・生活支援に対する質問]

①～⑨までの質問9問中、質問⑤および⑨を除く7問は 70%前後以上の学生が魅力を感じていることが分かった。

質問⑤あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の斡旋がある」点にどの程度魅力を感じていますか。

→ 53%

- ・全学的なテーマであり、学生支援課や生協、さらには都城市と連携して、学生にとってより良い環境を整備について検討する必要があると考えられる。

質問⑨あなたは南九州大学の「各学年の教員による担任制度があり、学習支援・学生生活支援をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

→ 58%

・この制度を知らない新入生もいると考えられることから、新入生にはオリエンテーションで、保護者には保護者懇談会を通して周知を図る必要があると思われる。

[学習・生活支援に対する質問]

①～⑥までの質問9問中、質問④および⑤を除く、3問は80%前後の学生が魅力を感じていることが分かった。

質問④あなたは南九州大学の「通学に関して、スクールバスの運行や広い駐車場・駐輪場を有しており、通学に便利である」点にどの程度魅力を感じていますか。

→ 67%

質問⑤あなたは南九州大学の「体育館・グラウンドなどの運動施設やサークル活動の支援施設（クラブハウス）が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。

→ 62%

・これらについてはどちらも学生の福祉、生活に関わる問題で、重要であると認識すべきであると考ええる。これらも全学的な問題であり、学生部・学生支援課と連携して学生にとって心地良い生活環境を作ることができるよう改善を図る必要があると思われる。

<<卒業生満足度調査結果>>

今回の卒業生満足度調査対象の学生には新入生魅力度調査を行っておらず、同一学生間の比較とはなっていないが、このことを除くと、魅力度調査と比較すると満足度調査の結果は全般を通し低下傾向があることが認められ、今後の課題として検討がなされる必要があると思われる。

[教育研究に対する設問]

①～⑯までの質問 16 問中で、14問は 60%以上の学生が魅力を感じることが分かった。

新入生魅力度と比較し満足度が増加した項目は質問⑨の「教育科目の設置について」のみであった。これは4年間の中で教育科目の重要性・必要性について理解が深まったものと考えられ、入学早期に教育科目の意義を理解させることが重要であると思われる。

質問③および⑦については 5 割程度しか満足したと回答していない。さらに、魅力度と見比べると質問③が 80%→57%、⑦が 84%→50%と顕著に減少している。

質問③あなたは南九州大学の「食・緑・人に関する基礎的、応用的研究をすすめ、専門的分野において社会に貢献寄与できる人材を育成している」点にどの程度満足しましたか。

質問⑦あなたは環境園芸学科が、附属の実験施設やフィールドセンター等を活用した実学教育と少人数教育を行っていることにどの程度満足しましたか。

[就職支援に対する質問]

①～⑤までの質問5問中で、次の□の質問③、④および⑤において就職支援に不足を感じているが半数以上いることが示された。就職課を中心に学生の意見を把握しつつ改善する必要があると考えられる。

質問③あなたは南九州大学の「地元へのUターン就職に対して全力でサポートしてくれる」点にどの程度満足しましたか。

質問④あなたは南九州大学の「各学科に関連する業界の求人情報を多く扱っている」点にどの程度満足しましたか

[学習・生活支援に対する質問]

①～⑨までの質問9問中、4問は70%以上の学生が魅力を感じたが、次の質問⑥、⑦、⑧および⑨は50%台で、質問⑤においては37%と極めて低い満足度であった。

質問⑤あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の斡旋がある」点にどの程度満足しましたか。

質問⑥あなたは南九州大学の「課外活動（部活動、学友会、学祭実行委員会等）が充実していて楽しく思い出に残る学生生活が送れる」点にどの程度満足しましたか。

質問⑦あなたは南九州大学の「毎年有意義な学校行事（大学祭等）が行われている」点にどの程度満足しましたか。

質問⑧あなたは南九州大学の「充実した奨学金・特待生制度がある」点にどの程度満足しましたか。

質問⑨あなたは南九州大学の「各学年の教員による担任制度があり、学習支援・学生生活支援をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。

・質問⑤～⑧については学科単独の問題ではないと考えられ、これらの改善には大学や関係部署・団体と連携、全学的に取り組むの必要があると考えられる。

・質問⑨については、学生とコミュニケーションを取る機会を設けることにより改善が図られると思われ、学年担任はもとより、学科全体でのオフィスアワーの取り組みも有効な手段として考えられる。

[学習・生活支援に対する質問]

①～⑥までの質問6問中、2問は68%とおおむね魅力を感じているが、質問②は57%、⑥が51%、④が

45%、⑤が44%と高い満足度は得られていない。

質問②あなたは南九州大学の「インターネット環境が充実し整っている（学内LANの充実、情報処理室の充実等）」点にどの程度満足しましたか。

質問④あなたは南九州大学の「通学に関して、スクールバスの運行や広い駐車場・駐輪場を有しており、通学に便利である」点にどの程度満足しましたか。

質問⑤あなたは南九州大学の「体育館・グラウンドなどの運動施設やサークル活動の支援施設（クラブハウス）が充実している」点にどの程度満足しましたか。

質問⑥あなたは南九州大学の「休憩時間中にすごせる憩いの場（食堂・中庭・学生ラウンジ等）が充実している」点にどの程度満足しましたか。

・これらを新入生魅力度調査と比較するとほぼ 20～30%低くなっている。学生生活を通して満足の程度が低下することが窺える。

・いずれも学科単独の問題ではなく、改善のためには関係部署との連携・協力のもと改善を図る必要がある。

今回の新入生魅力度調査および卒業生満足度調査は初めて行ったものであり、その結果からは様々な課題が浮かび上がり、今後の学科あるいは大学のあり方を考える上で貴重な調査結果であると考えられる。課題改善には全学的な取り組みを必要とするものも多く、また、改善のためには設問の内容をより具体的に調査する必要もあるものと考えられる。これらの結果に対する学科あるいは大学としての対応が望まれる。

8. 学科・センター独自の FD 活動

ここでは、本学の各学科における「独自の FD 活動」について記録する。本学の学科構成は大変ユニークであり、各学科で質の高い FD 活動を独自に行っている。

環境園芸学科

1. 保護者懇談会の開催

保護者（全学年）から学科および都城事務部に対する意見を頂く場として年 1 回保護者懇談会を開催している。今年度は、キャンパス周りの外灯の整備、サークル活動における車で移動する際の友人の同乗について責任、保護者による学生の成績の web 上での確認などについて質問・意見があり、それぞれについて各担当から現状についての報告がなされるとともに、関係部署と検討していく旨の回答がなされた。

また、全体での懇談会后、個人面談を希望する保護者に対しては学生の学年担当・研究室指導教員等が個別に面談し質問・意見に対応した。

2. 学生指導

環境園芸学科では、学生の学習や進路、日常生活等の相談に応じるために、各学年担当の教員を配置している。学年持ち上がり方式をとっており、入学から、通常 3 年生の後期に研究室に所属し指導教員の元に学習活動を開始するまでの 3 年半の間、同じ教員が学生の諸問題に対応している。本学科の在学生の出身地は全国にわたり、一人暮らしをしている学生も少なくないため、日頃よりきめ細やかな対応を心掛けている。

1) 1 年生への指導

担任 4 人と、学生部員、学生支援課、学生相談室等の教職員を交えて、1 年生全体の把握するために月 1 回程度の定例ミーティングを行っている。必修授業の連続欠席、体調不良、悩みを抱える学生を早期に把握するとともに、指導方法とその対応策を協議し実行した。また、適時、定例学科会議で報告して学生情報を共有し、学科教員への協力を依頼した。

保護者に、班ごとの担当教員、編入生対応教員、学科長、学生支援課、保健室、女子対応教員などの連絡先（メールアドレス、電話番号）を文書で連絡した。オリエンテーション時に、5 人ずつの集合写真を撮影し、顔と名前が一致するような資料を作成した。休みがちの学生について、身体的、精神的、家庭的にどのような特徴があるかを把握し、授業への参加を促す連絡を行ったり、親に連絡をしたり、機会があればできるだけ本人に話しかけるようにした。

2) 2 年生への指導

担任教員 4 人と、学生相談に関わる教職員を交えて月 1 回の定例ミーティングを行った。学業不振や悩みを抱える学生を早期に見つけるとともに、指導方法を協議して適宜対応策を講じた。また、必要に応じて学科会議で報告することにより情報の共有化を図った。当該

年次の学生は、予定通り、休学等の一部学生を除いて年度初めに所属する専攻が決まった。

3) 3 年生への指導

環境園芸学科では、3 年生の後半からは原則として全ての学生が研究室に配属されることとなっている。配属学生数の上限を設定し、少人数による教育体制の堅持と研究室の担当教員の負担の偏りを無くする配慮を行っている。配属先の研究室では各教員が専攻演習や研究室の活動を通し専門分野の教育・研究指導のほか、履修・進路指導も行っている。配属作業においては、学生の希望を調査し、希望研究室が極力反映されるように配慮したが、その結果、研究室の配属者数が2〜7 名と不均衡となった。休学などの事情により研究室へ未配属の学生に対しては、3 年生担当教員が中心になり指導を行うとともに、次年度の研究室配属に向け 2 年生担当教員と情報の共有を図っている。休学中の学生については学生本人あるいは保護者と必要に応じて連絡を取り合っている。

4) 4 年生への指導

上述したような学科の方針に基づき、学生は3 年生後期から研究室配属され、4 年生の指導は引き続き配属先研究室の教員が中心となり行っている。必修科目である専攻演習や卒業論文を通し、教育・研究、さらには進路についても少人数あるいは個別指導を行っている。また、必要に応じ、保護者との連絡、学科での情報の共有を図っている。

3. 卒業研究概要集の作成

本年度は環境園芸学科一期生の卒業年度となり、学科として 4 年生の卒業論文で取り組んだ研究内容の要旨を取りまとめた卒業研究概要集の作成し、卒業生、研究室に配布した。4 年生にとっては卒業論文の内容の整理、まとめ、またさらなる理解に繋がったものと考えられる。また、研究室配属 3 年生にとっては 4 年生の卒業論文や概要とその作成の取り組み姿勢に接することができたことは今後の自分の取り組みや研究内容の理解に大いに役立つと期待される。

4. オープンキャンパスの開催

環境園芸学科では、毎年、春と夏にオープンキャンパスを開催している。学科の全教員が参加することを基本とし、パネルやポスターの展示、実験や実習のデモンストレーション等を活用して、学科の紹介、特に研究室の紹介を行なっている。

夏のオープンキャンパスでは22 研究室のブースを設置し、各教員が創意工夫を重ねたブースによる研究内容の紹介を行った。

春のオープンキャンパスでは、6 専攻のブースを設置して、専攻別に取り纏めた内容とした。また、2 名の教員による模擬授業も行われた。

学友会の学生も学科・キャンパスの生徒・保護者への説明に加わり、参加者からは大学・学科についてわかりやすかったとの好評が得られた。

5. 学生の資格取得支援

1) 園芸系

(1) 毒物劇物取扱責任者

当該資格の説明会と受験講習会を隔年開催しているが、本年度は表年であり、7月に講習会を行い、宮崎県の試験日程・会場等の情報を周知（就職課及び学生支援課と協働）するとともに教本や過去問題等の資料を提供した。

(2) 土壤医検定

土壤医は今年度から日本土壤協会主催で創設された資格で、教育・研究・就職支援の一環としてその内容や受験について学生に情報提供を行った。

2) 造園系

以下のような特別教育、講習および講義を行なった。

(1) 小型車両系建設機械特別教育を実施し、61名が受講し、全受講者が合格した（再試、追試および補講合格者各1名を含む）。

(2) チェーンソー（伐木）特別教育の実施

(3) 刈払機安全教育の実施

(4) 玉掛け技能講習の実施

(5) 造園技能士実技対策講習会の開催

(6) 造園技能士学科試験対策講習会の開催

(7) 造園技能士要素試験対策講座の開催

(8) 建築 CAD 検定の開催 12名が受検し、3級3名、2級1名が合格した。

また、造園系では旧造園学科の活動を引き継ぎ、学外における各種造園活動も授業と連携させて積極的に行った。その内容は下記の通りである。

(1) 養護施設における社会福祉活動と造園活動のコラボレーション

(2) 保育施設における造園活動の展開

(3) 被災地における住民の環境保全活動協力

(4) 希望者向けの高鍋キャンパスにおける造園技術向上メニュー

(5) 都城市民活動との連携

3) 自然環境系

(1) 自然再生士補

昨年度、本学科が認定された財団法人日本緑化センター自然再生士補の資格は、学生の卒業後に資格認定されていたが、当該センターが提案した在学中に資格認定が可能となる制度変更について、学生のメリット（就職活動）になることも踏まえ変更賛同したところ、そのように制度が変更され、その旨を学生に周知した。

(2) 生物分類技能検定

生物分類技能検定は平成11年度から自然環境研究センターが運営していたが、土壤医と同様に今年度、教育・研究・就職支援の一環としてその内容や受験について学生に情報提供を行った。

6. 特別講義の開催

学科の協力のもと、学科の教育活動の一環として『学生に大いなる刺激を！』を目標に1、

2年生を対象として植物バイオ・育種専攻主催の特別講義が行われた。講師として園芸学会副会長の柴田道夫先生（現東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻応用生物学専修園芸学研究室教授）をお招きし、「新しい花きを創る」～交雑育種から分子育種まで～、と題した講義には、1、2年の他、3、4年生、大学院生、教職員、関係研究機関等の職員を合わせ約220名の参加があった。

管理栄養学科

1. 全学的FD活動への積極的な参加

全学的FD活動である、各種事業に学科構成員がそれぞれ関係する事業へ参加した。それぞれの事業に参加することで、教育力向上などを目指すことができた。

2. 学科独自の委員会の設置

管理栄養学科では、全学的な委員会とは別に学科独自の委員会を設置し、活動を行ってきている。独自の委員会は、管理栄養士国家試験に関して対策の立案等を主な業務にする「国試対策委員会」、学生の就職支援等を主な業務にする「就職担当委員会」、高度な技能をもつ管理栄養士の養成ができるようカリキュラムの検討等を主な業務にする「カリキュラム検討委員会」の3委員会がある。これらの委員会がそれぞれの業務を円滑に進めることにより、学生の国家試験の高合格率、学生の就職の高内定率、高度な技能をもつ管理栄養士の排出を実現している。

3. リメディアル教育の推進

管理栄養学科の推薦入学等で早期に合格した入学予定者を対象に学科独自のリメディアル教育を推進してきている。入学予定者のうち、文系、理系出身者問わず、高校「化学I」および「生物I」レベルの基礎的な課題10問ほどを出し、決められた期日までに提出させている。栄養学を学ぶにあたり、化学および生物は大変重要な基礎的科目であり、このような課題を出すことで、入学前の学力向上に努めてきている。

4. 基礎的科目（化学・生物）の支援

管理栄養学科では上記③の事業とは別に入学後の基礎的科目（化学・生物）の支援も学科独自で行ってきている。1年次配当科目である「基礎化学実験」にて、高校の化学Iおよび生物Iに関する確認テストを実施し、当該科目が苦手な学生の抽出作業を行っている。当該科目が苦手な学生に対しては、個別に対応するなどして、学科の授業についていけるよう支援してきている。

5. 学科構成員全員で参画する管理栄養士国家試験対策

管理栄養学科の大きな教育の目標として、「管理栄養士国家試験の全員受験・全員合格」というものを掲げている。その大きな目標の実現に向け、学科構成員全員が学生たちの国家試験対策の支援を行ってきている。上記②の国試対策委員会が立案した国試対策方針を基に、教員は国試対策授業を行い、助教・助手は勉強会の実施などを行ってきている。これまでの

組織的な取り組みの成果もあり、平成23年5月発表の国家試験の結果（5期生）は95.1%と全国でトップレベルの合格率を出した。即戦力のある高度な技能をもった管理栄養士の養成とともに、管理栄養士国家試験に勝てる人材をこれからも養成していく。

6. 学生の名前と顔を覚える事業

管理栄養学科では、新入生の入学式時に顔写真を取り、それをもとに顔写真と氏名の書かれた資料を作成し学科構成教員へ配布するようにしている。そうすることで、学生一人ひとりの名前と顔を覚えることができ、学生指導・支援の推進に役だっている。

食品健康学科

1. 入学前教育（リメディアル教育）の実施

来年度入学予定の新入生が、入学後に勉学をスムーズに開始できるようにしてもらうことを目標として、入学手続き者を対象に、生物・化学・食品学の分野に関する課題に解答の後、提出してもらうリメディアル教育を学科全教員が取り組んで実施した。提出された解答については、学科教員がコメントを添えて各自に返却した。

2. カリキュラムの見直し

学科教育の根幹をなすカリキュラムの見直しは年間を通じて適宜行っている。特に、専門科目の配当年次や開講科目の検討については十分な時間をかけて行っている。食品開発科学科に名称が変更されたことを受け、今年度から食品開発関連の実習授業を増設するとともに、これまで選択科目であった複数の食品開発関連講義を必修に変更することで実学教育の強化を実施した。

3. 学年別ガイダンスの強化

各学年での大学生活や卒業後の職業生活への展望を明確に持たせるために、前期・後期の開始時に学年別ガイダンスを実施した。これにより、各自で履修状況や資格取得などに関する意識付けを行うことを可能にし、より有意義な大学生活を送ることができるようになったものと考えられる。

4. 怠学者および成績不良者に対する緻密な指導

授業出欠管理の徹底と教員間における情報の共有により、問題を有する学生に対して、指導教員を中心にきめ細かな指導を実施している。

5. レポート作成支援の為に「レポート工房」を運営している

実験授業等で提出が必要なレポート作成に対して、「レポート工房」に設置したコンピューターを用いて、1年次の食品基礎実験や食品生化学実験などの授業において、作図や表計算プログラムの効率的な使用方法を指導している。PCとプリンタの導入台数は毎年増加しており、学生の利便性も更に増し、使用頻度は着実に増加している。昨年度には化学構造式を描く際に有用なソフトウェア"ChemDraw"及び描画ソフトの"Illustrator"を導入し、今年度から実験レポートのレベル向上に一役買っている。この「レポート工房」の使用に当たっては

学生の自主性を尊重しているが、使用時間帯を定めていること、使用簿に記録する等の一定の規則を決めて運用している。

6. 3 年前期からの研究室配属

早期に研究室へ配属させることにより、専攻生への手厚い指導・支援を可能にしている。また、研究室の4年生のアドバイスを得ながら、2年間じっくりかけて高度な専門的知識・技術を習得できることも利点である。

7. 資格取得・就職支援の充実

食品開発科学科はフードスペシャリストと健康食品管理士の養成校認定を受けている。「応用食品学演習」においては、各種資格取得に繋がる教育を実施している。また、例年11月から12月にかけて実施される認定試験に向けて、後期授業の開始とともに受験希望者に対してカリキュラム時間外での補習授業を実施している。就職支援に関しては、3年後期に「キャリアフォーメーション」を3年生全員の出席を前提とした正課外授業として開講し、就職課と連携して学生のキャリア形成と就職支援を実施している。

8. 高校、自治体および企業との連携

昨年度に引き続き、宮崎農業高校との連携を積極的に行い、相互の教育に係る連携・交流を通して、学生の視野を広げ、教育の活性化を図っている。今年度からは、新たに日南振徳高校と協定を締結して焼酎関連の連携を開始した。自治体との連携では昨年度から西都市と本格的に連携し、学科の実習教育を通してオリジナル食品の開発を行っている。さらに、企業との連携に関しては、食品開発実習の授業時に、製パン職人、和菓子職人、洋菓子職人の方々を特別講師として招聘し、学生が食品加工の職人技術に触れる機会を与えた。

9. 宮崎県学校農業クラブ連盟大会のサポート

食品開発科学科への参加依頼に基づき、「宮崎県学校農業クラブ連盟大会」（日本学校農業クラブ連盟主催）のプロジェクト発表会及び農業鑑定競技会において食品開発科学科教員が出題・審査等を行った。

10. 各種地域イベントへの積極的な参加

地域における食品開発の学科としての存在感を高めるために、宮崎県等共催の「宮崎県工業会主催テクノフェア」や宮崎市主催の「健康ふくしまつり」などの地域イベントに参加した。

11. 学科主催卒業祝賀会の実施

卒業生の門出を学科教員で祝福することを趣旨とする学科主催の卒業祝賀会を卒業式の終了後に実施している。卒業生による思い出や感謝の気持ちを表明する機会となり、学科教員からのひとことや保護者代表による挨拶および在学生代表からの贈る言葉など、卒業式の厳粛な雰囲気とは異なるアットホームな雰囲気で卒業生を送り出すイベントとして、学科では定着している。

子ども教育学科

1. 学科内 FD 研修会の実施

学科内 FD 研修会を 2012 年 12 月 10 日（月）14 時～16 時、子どもの学び研究所にて実施した。学科の全教員 16 名（赤松・磯部・内田・遠藤・大崎・春日・神田・黒川・黒木・古賀・渋谷・趙・早川・宮内・矢口・若宮）が参加した。

本年度の学科内 FD 研修のテーマは「教育・保育実習と各関連教科（授業）との関係性について」とした。学部として最初の本格的な教育・保育実習を終え、実習と大学での各関連教科（授業）との関係をどう考えるか、実際に実習と関連させながらどう授業を構想し実践しているのか等について、3 人の教員から話題提供してもらい、意見交換・情報交流を行うことを意図した。

ディスカッションを含めて 1 人持ち時間を約 40 分とした。3 名の話題提供のテーマと要旨は以下のとおりである。

宮内 孝 「教育実習を見据えた教科教育法（体育）の実践報告」

本授業で行った模擬授業の取り組みについて報告した。学生は、教育実習において授業を行う。そのことを見据えて、指導案等の作成を行い、15 分間の模擬授業に臨ませた。授業後は、授業評価の視点をもとに授業反省を行った。この模擬授業を通して、座学の講義だけでは保障することが難しい授業実践に直結する具体的な事項について、実際の行為を通して体験的に学ぶ機会となった。

澁澤 透 『『市民教育の教育学』と『教員養成の教育学』と』

この学科の教員となってから、従来行なってきた「市民教育の教育学」から「教員養成の教育学」への重点移行を意識している。学部教育は専門性のうえに市民性を育てるべきだという個人的な思いもあるので、両者を統合する方向を模索している。ただし、現在のところ戦後の代表的な教育実践や教育研究運動のなかで生まれたキーワードを授業内容に採り入れるにとどまっている。

黒木哲徳 「教員養成に必要な新たな『学』の形成を目指して」

教員養成系における専門科目「算数」と「教科教育法（算数）」について、いま行っている講義をもとに話題提供を行った。この学科でのこの二つの講義の目的は教員になることを目指したものであり、この二つの科目の内容は表裏一体のものであり、前者はそのための内容学、後者は方法学である。従って、この二つは切り離して考えることはできない。算数科においては、「算数」の背景にあるのは「数学」であり、「数学」と「教科教育法（算数）」の観点から、専門科目「算数」で講義する内容を構築する必要がある。そのために「算数学」といった新たな学問的な領域の確立が必要であることなどについて述べた。「教員養成」という角度からの、3 教員それぞれの「授業論」は大変興味深いもので、各教員にとって示唆に富む内容であった。

2. FD に関わる外部研修

1) 保育士養成校としての保育士養成に関わる情報収集

①平成 24 年 8 月 27 日～28 日、第 15 回全国保育士養成協議会九州ブロックセミナー・宮

崎大会への参加（澁澤透・矢口裕康・若宮邦彦・黒川久美）

宮崎市の宮崎観光ホテルにて開催されセミナーに、本学科から 4 名が参加した。今回の大会テーマは「保育・福祉現場で必要とされる人材養成を考える～社会の変化や多様化する現場に対応できる保育士とは～」であった。九州・沖縄の保育士養成校から 125 名が集い、活発な研究討議、情報交換が行われた。

宮崎大会ということから、宮崎県内の保育士養成校が実行委員会を結成して取り組みを進めてきたが、本学も実行委員会の一員として、事前準備に関わるとともに、大会当日も次のような役割を担った。すなわち、第 4 分科会「質の高い保育士養成を目指した教員間の協働」で、本学教員の澁澤、矢口が分科会趣旨の提案ならびに司会進行を行った。また第 2 分散会では、本学教員の黒川、若宮が司会進行を行った。

②平成 24 年 9 月 8 日～9 日 第 43 回九州保育団体合同研究集会宮崎集会への参加（澁澤透、内田芳夫、磯部美良、黒川久美、神田嘉延、大崎裕子）

本学都城キャンパスで開催された九州保育団体合同研究集会宮崎集会に、6 名の教員が参加した。集会の実行委員長（澁澤）、分科会運営委員（内田、磯部、黒川）も担い、集会の成功に貢献した。本集会は毎年 1 回、九州各地から保育者、保護者、研究者等が集い、保育・子育てに関する講演・講座での学びとともに、実践提案をもとに討議し研究を深める集会であり、今集会には 915 名の参加者があった。本学科教員にとって、保育現場の諸課題を把握するいい機会であるとともに、学生への指導に生かせる様々な情報も得ることができる場である。なお、本学科学生 10 数名がボランティアとして集会運営や子どもの保育にあたり、学生にとっても貴重な学びの機会となった。

2) 教員養成系学部としての教員養成にかかわる情報収集

平成 25 年 3 月 2 日～3 日、福井大学で開催された「省察するコミュニティーラウンドテーブル 2013」に、赤松國吉と宮内孝が参加し、本学部の教育実習の概要と成果の発表を行った。本学の教育実習方式について、多くの方から興味をもっていただき、活発な質疑が行われた。この質疑を通して、本学の教育実習方式は、教師としての実践力を培う教育実習として高い評価を得ていることがうかがえた。

また、福井大学教職大学院のインターンシップの取り組みは、とても参考になった。学校現場で実践を行い、それを大学に持ち寄り省察会を開く。その省察から得た課題をもって、再び学校現場で実践を行うという方式であった。この方式は、教師としての実践力を確実に培うものとして有効である。この方式を本学部の教育実習にも活用しながら充実した教育実習にしていきたい。

3. 「子どもの学び研究所」「子育て支援センター」「環境教育センター」の活動について

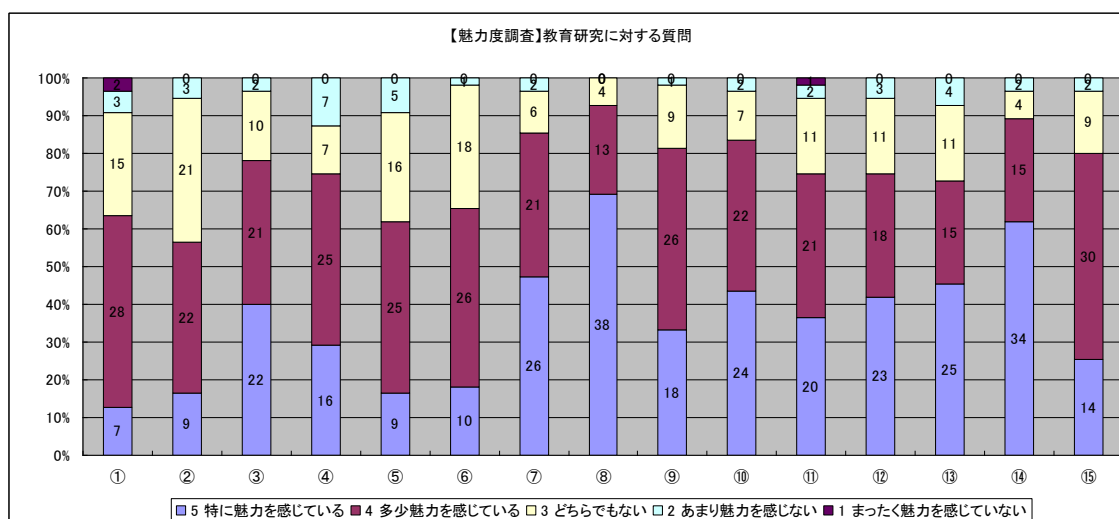
学部附属の「子どもの学び研究所」「子育て支援センター」「環境教育センター」では、現場教師との共同研究、地域の親子への子育て支援活動、学生も参加しての研究活動などそれぞれにおいて柱となる活動が展開されている。平成 24 年度の活動内容の詳細は『南九州大学人間発達研究』第 3 巻に報告されているが、どの活動も大学教員としての教育力量を向上

【管理栄養学科】

＜新入生魅力度調査結果＞

【教育研究に対する質問】

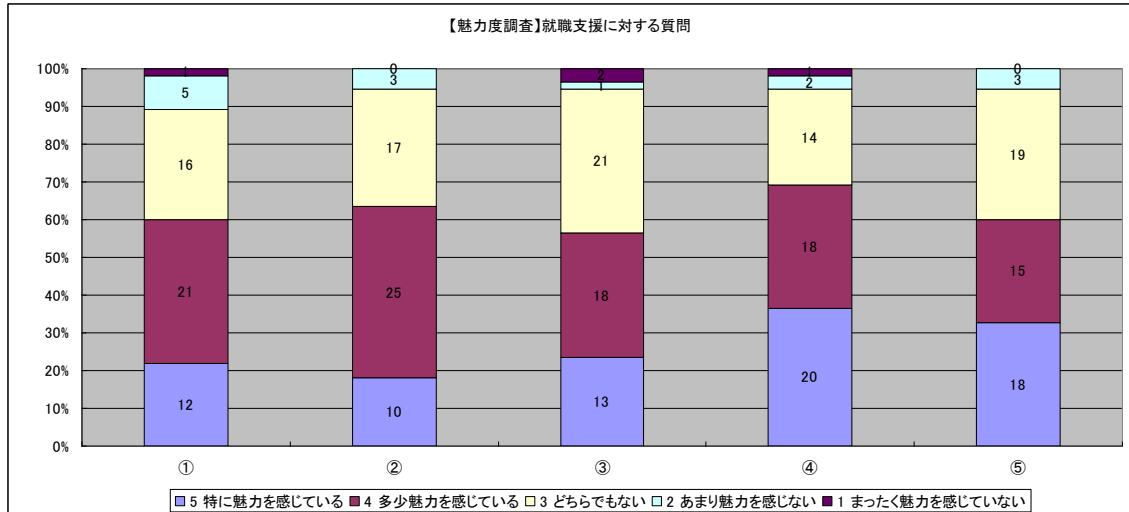
- ① あなたは南九州大学の「豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境」で勉学に励めることをどの程度魅力を感じていますか。
- ② あなたは南九州大学の「創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成する」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ③ あなたは南九州大学の「食・緑・人に関する基礎的、応用的研究をすすめ、専門的分野において社会に貢献寄与できる人材を育成している」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ④ あなたは南九州大学の「優れた教育研究業績をもつ、あるいは優れた現場経験をもつなど、高い能力を持った教員による教育を受けることができる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑤ あなたは南九州大学の「優れた研究環境のもと最先端の研究ができる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑥ あなたは管理栄養学科の「人生観、世界観を考える社会性と人間性を備えた教養豊かで健康な専門職業人の育成を目指している」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑦ あなたは管理栄養学科の「将来、保健・医療・介護、および栄養教育の分野で専門的知識や技術を持ち、地域住民の生活の質の向上に貢献できる応用実践力があり、かつ視野の広い管理栄養士を育成する」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑧ あなたは管理栄養学科の「栄養士および管理栄養士国家試験受験資格を取得できる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑨ あなたは管理栄養学科の「栄養教諭1種免許を取得できる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑩ あなたは管理栄養学科の「管理栄養士・栄養士の活躍する現場で職業体験ができる“臨地・校外実習”をカリキュラムに組み込んでいる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑪ あなたは管理栄養学科の「医療機関や行政などの現場をよく知る教授陣によって、豊富な知識と実践技術が学べる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑫ あなたは管理栄養学科の「地元宮崎に貢献できる管理栄養士の人材育成をしている」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑬ あなたは管理栄養学科の「チーム医療に参画できる臨床栄養のスペシャリストとして、高度な専門知識・技能を習得できる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑭ あなたは管理栄養学科の「管理栄養士国家試験合格に向けた支援が充実していて、合格率100%を目指している」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑮ あなたは管理栄養学科の「栄養学の基礎から応用までの充実した研究を行っている研究室を多数有している」点にどの程度魅力を感じていますか。



- ・ 質問①から⑤までが「南九州大学」の教育研究の理念等に対する魅力度調査であり、質問⑥から⑮までが「管理栄養学科」の教育研究に対する魅力度調査であった。
- ・ 全体的にすべての質問で魅力が高いことが分かり、新入生の「本学・本学科の教育研究」に対して魅力を感じ期待を持って入学してきていることが分かった。
- ・ 管理栄養学科の質問の方が魅力度の高い傾向であることが分かった。
- ・ 特に、質問⑧および⑭の「免許取得」に対して魅力を強く感じていることが分かった。
- ・ 質問⑤の研究関しての質問については、他の質問に比べ魅力度が比較的低く、新入生たちは「研究」をするために管理栄養学科へ入学してきているというよりも、「資格・免許取得」や「技術習得」に対して魅力と期待を感じに入学してきていることが予想される。

【就職支援に対する質問】

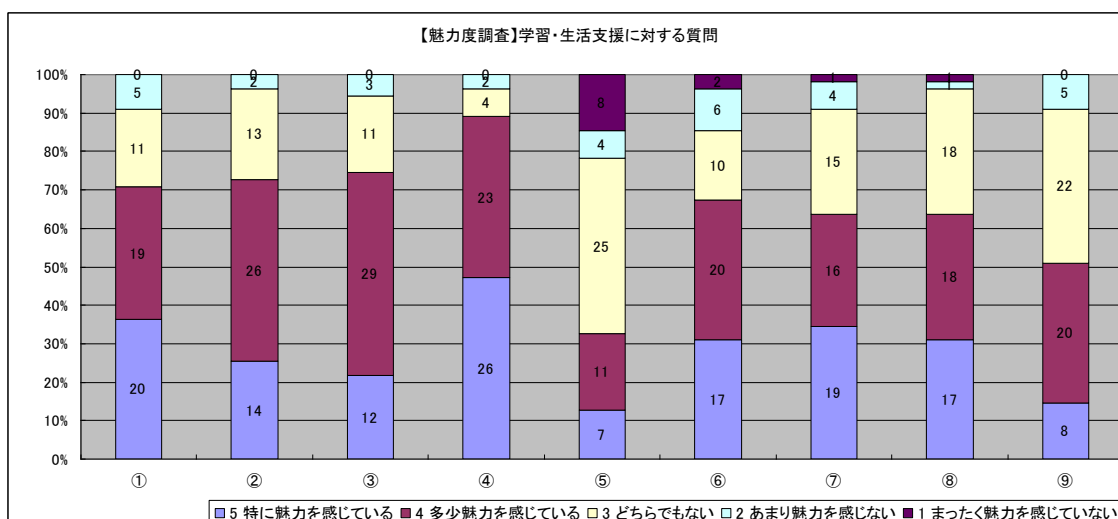
- ① あなたは南九州大学の「就職課」があり、当該課の専門スタッフが就職活動支援をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ② あなたは南九州大学の「将来の進路に関するセミナー・ガイダンスや公務員・教員就職のための講座が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ③ あなたは南九州大学の「地元へのUターン就職に対して全力でサポートしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ④ あなたは南九州大学の「各学科に関連する業界の求人情報を多く扱っている」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑤ あなたは南九州大学の「インターンシップ制度が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。



- ・ 就職支援に対する魅力度については、教育研究に対する魅力度ほど高くないことが分かった。
- ・ 本学の就職支援は、我が国の他大学で行われている就職支援と大きく変わらないことから、本学の支援に対しての魅力が小さいのかもしれない。
- ・ 質問③の質問で「Uターン就職」に関する質問があるが、管理栄養学科は宮崎県内出身者の多い学科であることから、「宮崎県内の地元就職に対する魅力度」について質問を設けてもいいかもしれない。

【学習・生活支援に対する質問】

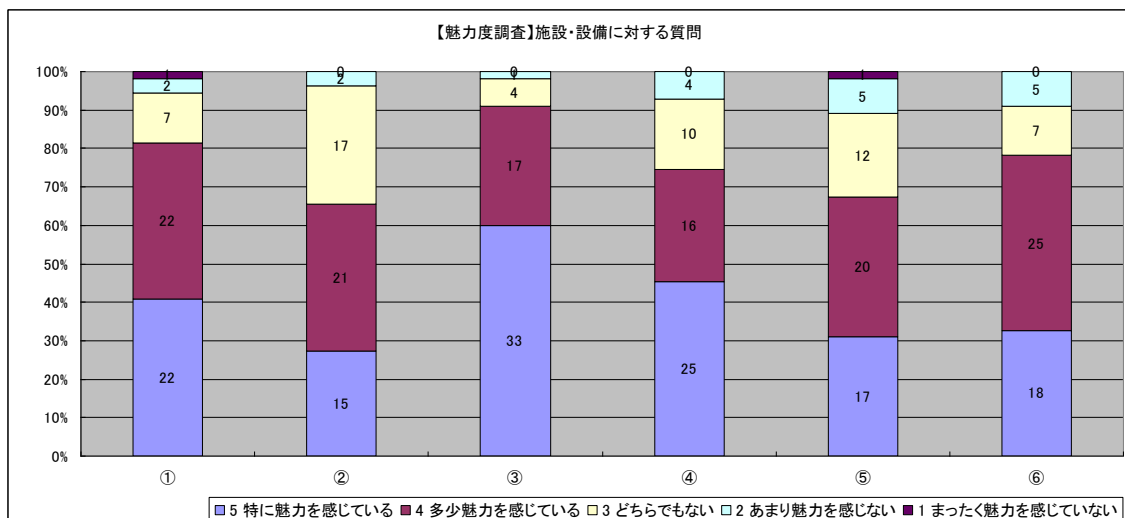
- ① あなたは南九州大学の「学生支援課」があり、当該課の専門スタッフが学習支援(各種証明書発行・休講時連絡・アルバイト情報等)をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ② あなたは南九州大学の「充実した蔵書・雑誌・新聞・視聴覚機器・閲覧スペース等のある図書館があり、学生の学習支援に役立っている」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ③ あなたは南九州大学の「保健室・学生相談室」があり、当該室の専門スタッフが怪我・体調不良の治療や体調管理に関する相談、大学生活に関する悩み相談をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ④ あなたは南九州大学の「生協売店・生協食堂」があり、学生生活の支援充実をはかってくれている」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑤ あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の斡旋がある」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑥ あなたは南九州大学の「課外活動(部活動、学友会、学祭実行委員会等)が充実していて楽しく思い出に残る学生生活が送れる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑦ あなたは南九州大学の「毎年有意義な学校行事(大学祭等)が行われている」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑧ あなたは南九州大学の「充実した奨学金・特待生制度がある」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑨ あなたは南九州大学の「各学年の教員による担任制度があり、学習支援・学生生活支援をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。



- ・ 質問内容にもよるが、学習・生活支援に対する質問に関しては、全体的に魅力を感じて入学してきている傾向があった。
- ・ 質問④の生協売店および生協食堂による生活支援に関しては魅力度が高い傾向にあり、学内で食事やそのた学習に関連する物品が揃うことに対して魅力があることが分かった。
- ・ 地元宮崎県出身の多い(特に宮崎市周辺から)管理栄養学科の新入生にとっては、質問⑤の下宿斡旋に関しては、魅力が低かった。
- ・ 質問⑨の担任制に対する魅力度が比較的低い傾向にあり、「担任制を嫌っているのか」「担任制が当たり前」に感じているのかさらなる詳細な調査が必要である。

【施設・設備に対する質問】

- ① あなたは南九州大学の「最先端の機器を導入した実験室や実際の現場を想定した実習室(フィールドセンターを含む)が整備されている」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ② あなたは南九州大学の「インターネット環境が充実し整っている(学内LANの充実、情報処理室の充実等)」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ③ あなたは南九州大学の「清潔で機能的で、また快適な校舎で学生生活が送れる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ④ あなたは南九州大学の「通学に関して、スクールバスの運行や広い駐車場・駐輪場を有しており、通学に便利である」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑤ あなたは南九州大学の「体育館・グラウンドなどの運動施設やサークル活動の支援施設(クラブハウス)が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。
- ⑥ あなたは南九州大学の「休憩時間中にすごせる憩いの場(食堂・中庭・学生ラウンジ等)が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。

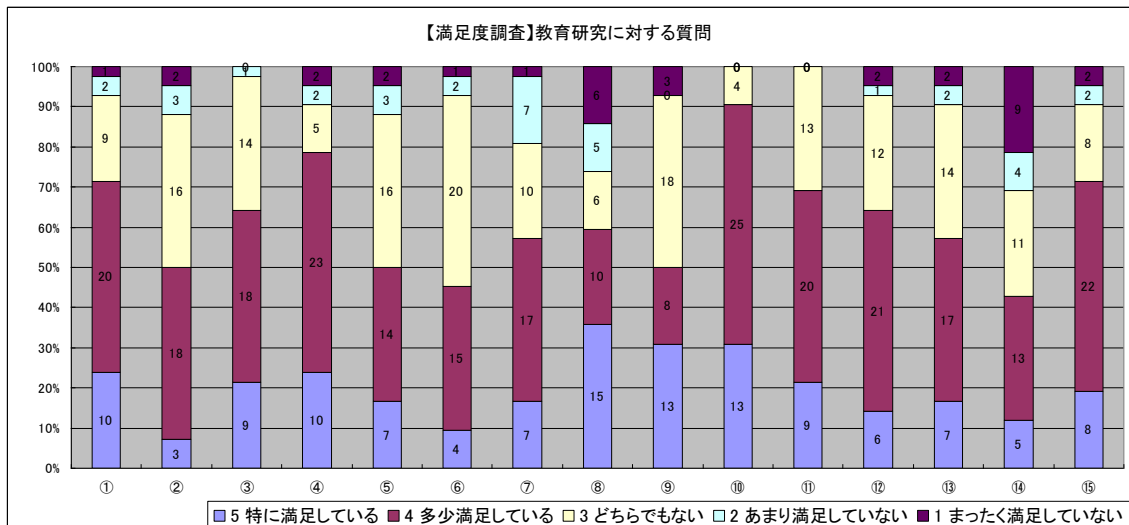


- ・ 質問内容にもよるが、施設・設備に対する質問に関しては、全体的に魅力を感じて入学している傾向があった。
- ・ 管理栄養学科が設置されている宮崎キャンパスは開設 10 年と比較的新しいキャンパスであることから、質問③をはじめ幾つかの質問で魅力度が高いことが分かった。
- ・ 施設・設備は劣化等が避けられないものであり、今後施設・設備が老朽化してきた際の対策を、しっかり立てていかななくてはならない。

＜卒業生満足度調査結果＞

【教育研究に対する質問】

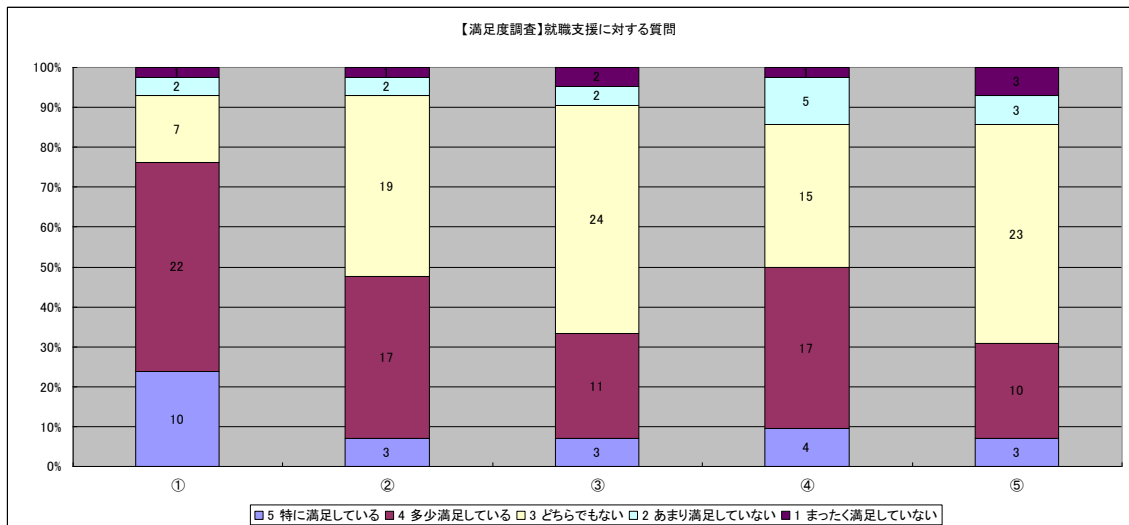
- ① あなたは南九州大学の「豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境」で勉学に励めることをどの程度満足しましたか。
- ② あなたは南九州大学の「創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成する」点にどの程度魅力を感じましたか。
- ③ あなたは南九州大学の「食・緑・人に関する基礎的、応用的研究をすすめ、専門的分野において社会に貢献寄与できる人材を育成している」点にどの程度満足しましたか。
- ④ あなたは南九州大学の「優れた教育研究業績をもつ、あるいは優れた現場経験をもつなど、高い能力を持った教員による教育を受けることができる」点にどの程度満足しましたか。
- ⑤ あなたは南九州大学の「優れた研究環境のもと最先端の研究ができる」点にどの程度満足しましたか。
- ⑥ あなたは管理栄養学科の、「人生観、世界観を考える社会性と人間性を備えた教養豊かで健康な専門職業人の育成を目指している」点にどの程度満足しましたか。
- ⑦ あなたは管理栄養学科の「将来、保健・医療・福祉・架以後、および栄養教育の分野で専門的知識や技術を持ち、地域住民の生活の質の向上に貢献できる応用実践力があり、かつ視野の広い管理栄養士を育成する」点にどの程度満足しましたか。
- ⑧ あなたは管理栄養学科の「栄養士及び管理栄養士国家試験受験資格を取得できる」点にどの程度満足しましたか。
- ⑨ あなたは管理栄養学科の「栄養教諭1種免許を取得できる」点にどの程度満足しましたか。
- ⑩ あなたは管理栄養学科の「管理栄養士・栄養士の活躍する現場で職業体験が出来る“臨地・校外学習”をカリキュラムに組み込んでいる」点にどの程度満足しましたか。
- ⑪ あなたは管理栄養学科の「医療機関や行政などの現場をよく知る教授陣によって、豊富な知識と実践技術が学べる」点にどの程度満足しましたか。
- ⑫ あなたは管理栄養学科「地元宮崎に貢献できる管理栄養士の人材育成をしている」点にどの程度満足しましたか。
- ⑬ あなたは管理栄養学科の「チーム医療に参画できる臨床栄養のスペシャリストとして、高度な専門知識・技能を修得できる」点にどの程度満足しましたか。
- ⑭ あなたは管理栄養学科の「管理栄養士国家試験合格に向けた支援が充実していて、合格率100%を目指している」点にどの程度満足しましたか。
- ⑮ あなたは管理栄養学科の「栄養学の基礎から応用までの充実した研究を行っている研究室を多数有している」点にどの程度満足しましたか。



- ・「特に満足している」と「多少満足している」を合わせて 50%を下回っている質問が⑥, ⑭等数問あり, 大きな課題としてあげられる。また, 70%を上回っている質問も少なく問題が大きい。
- ・特に満足度が低かったのは質問⑭の「国試対策」に対する満足度が低かったのは非常に残念である。過酷な模擬試験の受験や連日の勉強会実施が学生にとってつらいものであったのかもしれない。ただ, 今の対策をもっと優しいものにと変更することは, 国家試験合格率を下げてしまうことにつながるため, 学生にとってよりよい支援のあり方をしっかり考えていかななくてはならない。特に管理栄養学科の募集定員を増員してから学生の質は低下傾向にあるため, 普段成績の悪い学生たちが, 国家試験合格にむけてどう頑張らせるのかを今後真剣に考えていかななくてはならない。
- ・「人間性を育てる」等の質問である②や⑥, 「研究」等の質問である⑤の満足度が低いのにに対し, 「技術を身につける」等の質問である④や⑩の満足度が高かった。学生たちは人間教育・研究よりも技術習得に満足しているようである。

【就職支援に対する質問】

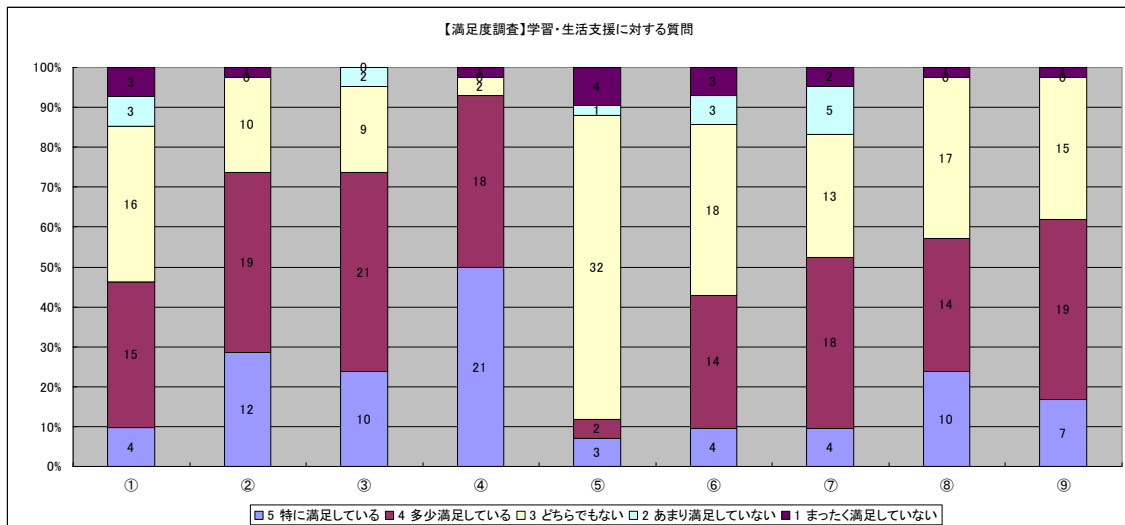
- ① あなたは南九州大学の「就職課」があり、当該課の専門スタッフが就職活動支援をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。
- ② あなたは南九州大学の「将来の進路に関するセミナー・ガイダンスや公務員・教員就職のための講座が充実している」点にどの程度満足しましたか。
- ③ あなたは南九州大学の「地元へのUターン就職に対して全力でサポートしてくれる」点にどの程度満足しましたか。
- ④ あなたは南九州大学の「各学科に関連する業界の求人情報を多く扱っている」点にどの程度満足しましたか。
- ⑤ あなたは南九州大学の「インターンシップ制度が充実している」点にどの程度満足しましたか。



- ・ 質問①以外の質問はすべて「特に満足している」と「多少満足している」を合わせて 50%を下回っており、就職支援に対して満足度が低いことが分かった。
- ・ 質問③はかなり満足度が低かったが、宮崎県内出身者が多いことが原因で大きな問題ではないと思われる。
- ・ 大学を卒業して、自分たちが行きたい就職先に就職できるように今後どのようなサポートが必要かしっかり考える必要があるものと思われる。

【学習・生活支援に対する質問】

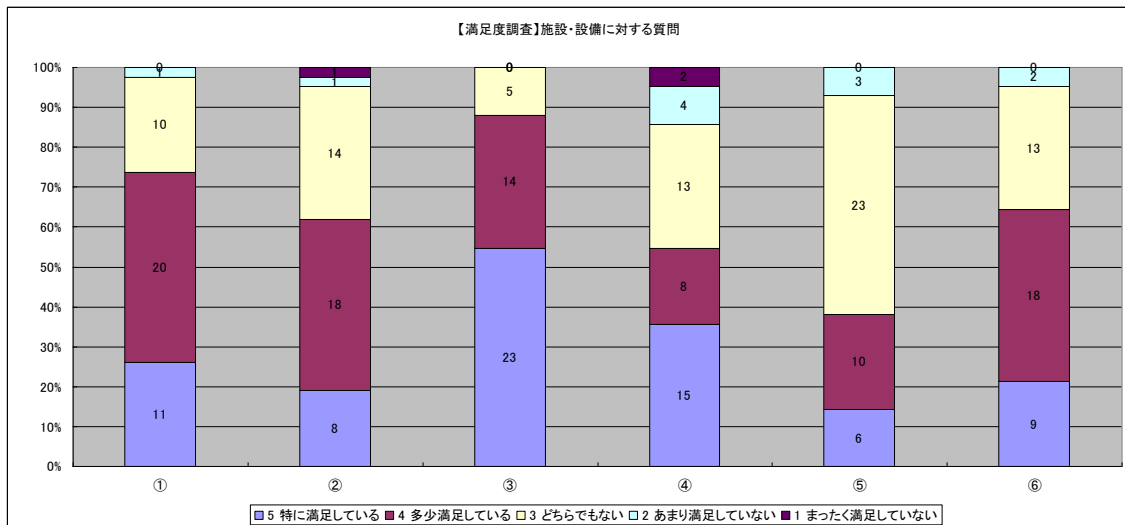
- ① あなたは南九州大学の「学生支援課」があり、当該課の専門スタッフが学習支援（各種証明書発行・休講時連絡・アルバイト情報等）をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。
- ② あなたは南九州大学の「充実した蔵書・雑誌・新聞・視聴覚機器・閲覧スペース等のある図書館があり、学生の学習支援に役立っている」点にどの程度満足しましたか。
- ③ あなたは南九州大学の「保健室・学生相談室」があり、当該室の専門スタッフが怪我・体調不良の治療や体調管理等に関する相談、大学生活に關しての悩み相談をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。
- ④ あなたは南九州大学の「生協売店・生協食堂」があり、学生生活の支援充実をはかっている」点にどの程度満足しましたか。
- ⑤ あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の斡旋がある」点にどの程度満足しましたか。
- ⑥ あなたは南九州大学の「課外活動（部活動、学友会、学祭実行委員会等）が充実していて楽しく思い出に残る学生生活が送れる」点にどの程度満足しましたか。
- ⑦ あなたは南九州大学の「毎年有意義な学校行事（大学祭等）が行われている」点にどの程度満足しましたか。
- ⑧ あなたは南九州大学の「充実した奨学金・特待生制度がある」点にどの程度満足しましたか。
- ⑨ あなたは南九州大学の「各学年の教員による担任制度があり、学習支援・学生生活支援をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。



- ・ 多くの質問で「特に満足している」と「多少満足している」を合わせて 50%を下回っており、学習・生活支援に対して満足度が低いことが分かった。
- ・ 質問⑤はかなり満足度が低かったが、宮崎県内出身者が多いことが原因で大きな問題ではないと思われる。
- ・ 質問①は「特に満足している」と「多少満足している」を合わせて 50%を下回っており、今後 5 時以降の窓口業務実施等の学生満足度向上のための事業改革の必要性を検討しなくてはならない。
- ・ 質問④の生協売店・食堂の存在は学生にとって満足度の高いものであることが分かった。

【施設・設備に対する質問】

- ① あなたは南九州大学の「最先端の機器を導入した実験室や実際の現場を想定した実習室（フィールドセンターを含む）が整備されている」点にどの程度満足しましたか。
- ② あなたは南九州大学の「インターネット環境が充実し整っている（学内LANの充実、情報処理室の充実等）」点にどの程度満足しましたか。
- ③ あなたは南九州大学の「清潔で機能的で、また快適な校舎で学生生活が送れる」点にどの程度満足しましたか。
- ④ あなたは南九州大学の「通学に関して、スクールバスの運行や広い駐車場・駐輪場を有しており、通学に便利である」点にどの程度満足しましたか。
- ⑤ あなたは南九州大学の「体育館・グラウンドなどの運動施設やサークル活動の支援施設（クラブハウス）が充実している」点にどの程度満足しましたか。
- ⑥ あなたは南九州大学の「休憩時間中にごさせる憩いの場（食堂・中庭・学生ラウンジ等）が充実している」点にどの程度満足しましたか。



- ・ 質問⑤で満足度が低かったが、クラブ活動等を行う学生が一部学生であることから満足度が低くなったものと考えられる。
- ・ 質問②および④、⑥の満足度は決して高いわけではないが、どちらでもないと回答を保留にする者、不満に思う者が数名見られた。今後この点に関するさらなる充実が必要になると思われる。
- ・ 開設 10 年ほどの宮崎キャンパスにとっては、まだ施設が新しく清潔感のあることから質問③の満足度は高かった。しかし施設・設備は劣化等が避けられないものであり、今後施設・設備が老朽化してきた際の対策を、しっかり立てていかななくてはならない。

＜魅力度調査と満足度調査の結果のギャップ値算出＞

今回のアンケートは、2 つのアンケートの結果より魅力度と満足度との「ギャップ（魅力に感じたことに対して満足したのか）」を得るために、魅力度調査と満足度調査の質問内容はできるだけ同じ内容にしてある。本来『真のギャップ値』を得るためには、4 年間の期間が必要であるが、今回調査した結果を用いて『仮のギャップ値』を算出してみた。

（『ギャップ値の算出方法』）

各質問について、それぞれの選択肢で回答のあった人数に、選択肢の点数 * を乗じて、それぞれの選択肢で乗じた数値を足した。その足した数値に回答のあった人数を除して、その質問の『ポイント』とした。

そしてギャップ値の算出方法は、

ギャップ値 = 満足度調査『ポイント』－ 魅力度調査『ポイント』

で算出した。

* 選択肢の点数

魅力度調査

5 点	特に魅力を感じている
4 点	多少魅力を感じている
3 点	どちらでもない
2 点	あまり魅力を感じない
1 点	まったく魅力を感じていない

満足度調査

5 点	特に満足している
4 点	多少満足している
3 点	どちらでもない
2 点	あまり満足していない
1 点	まったく満足していない

上述の通り、ギャップ値を出すことは、今年魅力度を調査した 1 年生が、4 年生で満足度調査の結果を出す時に実施すべきことであるが、管理栄養学科の学生の『傾向をつかむ』ことは大変重要であるので、『仮のギャップ値』を算出することにした。今回は『仮のギャップ値を算出するまでにとどめ、詳細な検討については、現 1 年生が卒業を迎える 3 年後に実施することにした』。

下記に示す『仮のギャップ値』の大きいものほど（特にマイナス値の大きいものほど）、今後検討しなければならない課題となる。今後マイナス値の大きい事項について意識した学科運営が必要とされるものと思われる。

[教育研究に対する質問の『仮のギャップ値』]

【教育研究に対する質問】

①	あなたは南九州大学の「豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境」で勉学に励めることをどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
②	あなたは南九州大学の「創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成する」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
③	あなたは南九州大学の「食・緑・人に関する基礎的、応用的研究をすすめ、専門的分野において社会に貢献寄与できる人材を育成している」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
④	あなたは南九州大学の「優れた教育研究業績をもつ、あるいは優れた現場経験をもつなど、高い能力を持った教員による教育を受けることができる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑤	あなたは南九州大学の「優れた研究環境のもと最先端の研究ができる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑥	あなたは管理栄養学科の「人生観、世界観を考える社会性と人間性を備えた教養豊かで健康な専門職業人の育成を目指している」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑦	あなたは管理栄養学科の「将来、保健・医療・介護、および栄養教育の分野で専門的知識や技術を持ち、地域住民の生活の質の向上に貢献できる応用実践力があり、かつ視野の広い管理栄養士を育成する」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑧	あなたは管理栄養学科の「栄養士および管理栄養士国家試験受験資格を取得できる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑨	あなたは管理栄養学科の「栄養教諭1種免許を取得できる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑩	あなたは管理栄養学科の「管理栄養士・栄養士の活躍する現場で職業体験ができる”臨地・校外実習”をカリキュラムに組み込んでいる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑪	あなたは管理栄養学科の「医療機関や行政などの現場をよく知る教授陣によって、豊富な知識と実践技術が学べる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑫	あなたは管理栄養学科の「地元宮崎に貢献できる管理栄養士の人材育成をしている」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑬	あなたは管理栄養学科の「チーム医療に参画できる臨床栄養のスペシャリストとして、高度な専門知識・技能を習得できる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑭	あなたは管理栄養学科の「管理栄養士国家試験合格に向けた支援が充実していて、合格率100%を目指している」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑮	あなたは管理栄養学科の「栄養学の基礎から応用までの充実した研究を行っている研究室を多数有している」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
ギャップ値	0.22	-0.27	-0.31	-0.03	-0.19	-0.37	-0.77	-1.07	-0.46	-0.02	-0.13	-0.44	-0.51	-1.45	-0.26

[就職支援に対する質問の『仮のギャップ値』]

【就職支援に対する質問】

①	あなたは南九州大学の「“就職課”があり、当該課の専門スタッフが就職活動支援をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
②	あなたは南九州大学の「将来の進路についてのセミナー・ガイダンスや公務員・教員就職のための講座が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
③	あなたは南九州大学の「地元へのUターン就職に対して全力でサポートしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
④	あなたは南九州大学の「各学科に関連する業界の求人情報を多く扱っている」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑤	あなたは南九州大学の「インターンシップ制度が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。

	①	②	③	④	⑤
ギャップ値	0.21	-0.31	-0.45	-0.55	-0.71

[学習・生活支援に対する質問の『仮のギャップ値』]

【学習・生活支援に対する質問】

①	あなたは南九州大学の「“学生支援課”があり、当該課の専門スタッフが学習支援(各種証明書発行・休講時連絡・アルバイト情報等)をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
②	あなたは南九州大学の「充実した蔵書・雑誌・新聞・視聴覚機器・閲覧スペース等のある図書館があり、学生の学習支援に役立っている」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
③	あなたは南九州大学の「保健室・学生相談室」があり、当該室の専門スタッフが怪我・体調不良の治療や体調管理等に関する相談、大学生活に関する悩み相談をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
④	あなたは南九州大学の「“生協売店・生協食堂”があり、学生生活の支援充実をはかっている」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑤	あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の給施設がある」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑥	あなたは南九州大学の「課外活動(部活動、学友会、学祭実行委員会等)が充実していて楽しく思い出に残る学生生活が送れる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑦	あなたは南九州大学の「毎年有意義な学校行事(大学祭等)が行われている」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑧	あなたは南九州大学の「充実した奨学金・特待生制度がある」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑨	あなたは南九州大学の「各学年の教員による担任制度があり、学習支援・学生生活支援をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
ギャップ値	-0.64	0.03	0.02	0.05	-0.11	-0.49	-0.47	-0.13	0.17

[施設・設備に対する質問の『仮のギャップ値』]

【施設・設備に対する質問】

①	あなたは南九州大学の「最先端の機器を導入した実験室や実際の現場を想定した実習室(フィールドセンターを含む)が整備されている」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
②	あなたは南九州大学の「インターネット環境が充実し整っている(学内LANの充実、情報処理室の充実等)」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
③	あなたは南九州大学の「清潔で機能的で、また快適な校舎で学生生活が送れる」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
④	あなたは南九州大学の「通学に関して、スクールバスの運行や広い駐車場・駐輪場を有しており、通学に便利である」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑤	あなたは南九州大学の「体育館・グラウンドなどの運動施設やサークル活動の支援施設(クラブハウス)が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。
⑥	あなたは南九州大学の「休憩時間中にすごせる憩いの場(食堂・中庭・学生ラウンジ等)が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか(満足していますか)。

	①	②	③	④	⑤	⑥
ギャップ値	-0.17	-0.15	-0.06	-0.41	-0.40	-0.21

【子ども教育学科】

＜新入生魅力度調査結果(子ども教育学科は完成年度を迎えていないため、魅力度調査のみ実施＞

【教育研究に対する設問】

- あなたは南九州大学の「豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境」で勉学に励めることをどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成する」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「食・緑・人に関する基礎的、応用的研究をすすめ、専門的分野において社会に貢献寄与できる人材を育成している」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「優れた教育研究業績をもつ、あるいは優れた現場経験をもつなど、高い能力を持った教員による教育を受けることができる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「優れた研究環境のもと最先端の研究ができる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは、「人の育ちと地域の育ちを支援する専門家」を育てるという子ども教育学科の方針にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは、子ども教育学科の4年生大学ならではの実践的で充実したカリキュラムのもと、保育士資格、幼稚園教諭一種免許、小学校教諭一種免許の三つの資格・免許を同時に取得できることにどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは、子ども教育学科の翔がこう・幼稚園とつながって、恒常的に現場で学ぶ事ができる連携学校園方式を採用している点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは、子ども教育学科が掲げる「子どもの心身」「地域と子ども」「自然環境」という学びの3つの特色にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは、子ども教育学科の4年間の学びを教員がきめ細かにサポートする、ホーム制や1年次後期から始まる少人数のゼミについてどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは、子ども教育学科のボランティア活動など、実践的に地域活動へ参加し、子どもとのかかわりや地域との関わりを学ぶ「子ども支援地域活動」という独自の科目にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは、子ども教育学科の学生一人ひとりの学習意欲の向上や科目履修計画作成に役立つようにGPA制度という成績評価システムを採用し、年間表彰も行っている点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは、子ども教育学科の脈絡なく単位を取ることなく、しっかり学習ができるよう年間取得単位を制限するCAP制を導入していることにどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは、子ども教育学科が「子どもの学び研究所」「子育て支援センター」「環境教育センター」という、学外に開かれた3つの活動拠点を有している点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは、子ども教育学科の「夢を叶える塾」での就職試験対策など、手厚い進路サポートがあることにどの程度魅力を感じていますか。

【教育研究に対する設問】	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
5 特に魅力を感じている	16	21	21	28	13	39	50	49	33	30	44	22	22	23	35
4 多少魅力を感じている	44	36	36	28	37	29	20	22	31	33	25	31	25	33	30
3 どちらでもない	7	14	15	13	18	4	2	0	7	7	2	16	20	16	8
2 あまり魅力を感じない	5	2	0	4	3	0	1	1	0	3	2	4	4	0	0
1 まったく魅力を感じていない	1	0	1	0	2	1	0	1	2	0	0	0	2	1	0
未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【就職支援に対する質問】

- あなたは南九州大学の「就職課」があり、当該課の専門スタッフが就職活動支援をしてくれる点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「将来の進路に関してのセミナー・ガイダンスや公務員・教員就職のための講座が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「地元へのUターン就職に対して全力でサポートしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「各学科に関連する業界の求人情報を多く扱っている」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「インターンシップ制度が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。

【就職支援に対する質問】	①	②	③	④	⑤
5 特に魅力を感じている	25	26	21	21	22
4 多少魅力を感じている	27	35	29	34	30
3 どちらでもない	16	11	20	14	16
2 あまり魅力を感じない	2	0	1	2	2
1 まったく魅力を感じていない	2	0	1	1	2
未回答	1	1	1	1	1

【学習・生活支援に対する質問】

- あなたは南九州大学の「学生支援課」があり、当該課の専門スタッフが学習支援(各種証明書発行・休講時連絡・アルバイト情報等)をしてくれる点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「充実した蔵書・雑誌・新聞・視聴覚機器・閲覧スペース等のある図書館があり、学生の学習支援に役立っている」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「保健室・学生相談室」があり、当該室の専門スタッフが怪我・体調不良の治療や体調管理等に関する相談、大学生活に關しての悩み相談をしてくれる点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「生協売店・生協食堂」があり、学生生活の支援充実をはかってくれている点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の斡旋がある」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「課外活動(部活動、学友会、学祭実行委員会等)が充実していて楽しく思い出に残る学生生活が送れる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「毎年有意義な学校行事(大学祭等)が行われている」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「充実した奨学金・特待生制度がある」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「各学年の教員による担任制度があり、学習支援・学生生活支援をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

【学習・生活支援に対する質問】	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
5 特に魅力を感じている	33	25	20	32	19	24	27	20	22
4 多少魅力を感じている	32	32	38	30	26	34	27	28	35
3 どちらでもない	6	11	10	7	25	11	15	20	13
2 あまり魅力を感じない	0	3	4	3	1	3	2	1	0
1 まったく魅力を感じていない	2	2	1	1	2	1	2	3	2
未回答	0	0	0	0	0	0	0	1	1

【施設・設備に対する質問】

- あなたは南九州大学の「最先端の機器を導入した実験室や実際の現場を想定した実習室(フィールドセンターを含む)が整備されている」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「インターネット環境が充実し整っている(学内LANの充実、情報処理室の充実等)」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「清潔で機能的で、また快適な校舎で学生生活が送れる」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「通学に関して、スクールバスの運行や広い駐車場・駐輪場を有しており、通学に便利である」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「体育館・グラウンドなどの運動施設やサークル活動の支援施設(クラブハウス)が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。
- あなたは南九州大学の「休憩時間中にごさる憩いの場(食堂・中庭・学生ラウンジ等)が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。

【施設・設備に対する質問】	①	②	③	④	⑤	⑥
5 特に魅力を感じている	24	27	35	31	17	29
4 多少魅力を感じている	27	30	25	25	35	26
3 どちらでもない	18	12	10	13	14	10
2 あまり魅力を感じない	2	2	2	3	2	2
1 まったく魅力を感じていない	2	2	1	1	5	6
未回答	0	0	0	0	0	0

[学習・生活支援に対する質問]

学生支援課、保健室・学生相談室、生協売店・食堂など学生生活に密着している項目にて総合的にポイントが高い。

[施設・設備に対する質問]

ハード面については建物自体が新しく、駐車スペース等十分な広さが確保されていることが高ポイントの背景。食堂、ラウンジの充実の魅力を感じない傾向があるのは学生数の増加とスペースの不整合が要因と思われる。

[教育研究に対する設問]

①～⑤の設問については具体的に実感できていない。⑦(3 資格取得)、⑧(連携園方式)、⑪(地活・ボランティア)、⑮(夢叶)といった本学科のオリジナルに高ポイントがみられた。

[就職支援に対する質問]

大学に入学して間もない時期ということもあり実感する事が困難なためか魅力を感じるか？の設問に対して「どちらでもない」が多くみられた。

今年度が初回にて次年度以降は比較検討を行うなかで具体的な改善点や改善策につながるものとする。

【食品健康学科】

＜新入生魅力度調査結果＞

[教育研究に対する質問]

設問⑦「食品の開発・製造（美味しくつくること）に携わる専門家を育成するための教育・研究」に関して魅力を感じている」および設問⑩「実験・実習・学外インターンシップなどの授業を多く設置し、実践的な能力を身につけるための教育」について、「特に満足している」または「多少満足している」と回答した学生が 8 割を超えていたことが特筆に値する。

【教育研究に対する設問】		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
5	特に魅力を感じている	5	2	4	4	5	7	11	6	8	13	7	3	9	11	0
4	多少魅力を感じている	14	12	15	14	17	17	15	16	16	11	16	10	14	7	17
3	どちらでもない	6	13	9	7	5	6	3	8	6	5	6	15	6	7	10
2	あまり魅力を感じない	4	3	2	4	2	0	0	0	0	1	1	2	1	5	3
1	まったく魅力を感じていない	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	未回答	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

[就職支援に対する質問]

[学習・生活支援に対する質問]

「魅力を感じている」との回答が大半であった。新入生の期待度に沿えるように努力が必要である。

【就職支援に対する質問】		①	②	③	④	⑤
5	特に魅力を感じている	5	4	7	2	4
4	多少魅力を感じている	18	15	13	22	17
3	どちらでもない	7	11	10	6	9
2	あまり魅力を感じない	0	0	0	0	0
1	まったく魅力を感じていない	0	0	0	0	0
	未回答	0	0	0	0	0

【学習・生活支援に対する質問】		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
5	特に魅力を感じている	7	5	5	6	4	4	3	3	4
4	多少魅力を感じている	18	14	14	17	8	11	11	16	10
3	どちらでもない	4	10	10	6	14	8	11	8	13
2	あまり魅力を感じない	0	0	0	0	2	5	3	1	0
1	まったく魅力を感じていない	0	0	0	0	1	1	1	1	2
	未回答	1	1	1	1	1	1	1	1	1

[施設・設備に対する質問]

設問⑤「体育館・グラウンドなどの運動施設やサークル活動の支援施設(クラブハウス)が充実している」および設問⑥「休憩時間中にすごせる憩いの場(食堂・中庭・学生ラウンジ等)が充実している」に関して魅力を感じていないという回答が若干数見られた。入学後しばらく経過後に調査を実施したことから、既に学内施設の不便な点を感じ始めた新入生が一部いたと考えられる。

【施設・設備に対する質問】		①	②	③	④	⑤	⑥
5	特に魅力を感じている	6	8	14	7	4	5
4	多少魅力を感じている	17	15	9	12	12	12
3	どちらでもない	4	4	5	9	8	6
2	あまり魅力を感じない	1	2	0	0	2	6
1	まったく魅力を感じていない	1	0	0	1	3	0
	未回答	1	1	2	1	1	1

<卒業生満足度調査結果>

[教育研究に対する設問]

設問⑥「食品製造者と消費者の両方の視点、および食に関する科学的知識と倫理を身につけた食品のスペシャリストを養成するための教育・研究を行っている」において、「特に満足している」、「多少満足している」と回答した割合が 93%となっており、満足度が高いことを示す結果が得られた。一方で、設問⑩「実験・実習・学外インターンシップなどの授業を多く設置し、実践的能力を身につけるための教育を行っている」では、「あまり満足していない」との回答が若干見られた。また、設問⑭「高等学校教諭1種(農業・理科)、中学校教諭1種(理科)の資格を取得できること」に関しては、当該学年における教職免許取得予定者が 2 名であり、免許の取得を希望しなかった者が「満足していない」と回答したことが考えられる。

【教育研究に対する設問】		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
5	特に満足している	5	3	5	6	4	8	6	6	6	7	5	4	5	3	6
4	多少満足している	4	5	4	5	6	5	4	5	4	4	4	4	6	0	4
3	どちらでもない	5	4	5	3	3	1	4	3	4	1	5	6	3	5	2
2	あまり満足していない	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	2	1
1	まったく満足していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
	未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

[就職支援に対する設問]

全般的に「あまり満足していない」との回答者が4分の1程度見られたことに関しては、調査実施時における就職内定状況が関係していると考えられるものの、可能な限り改善していくことが必要である。

【就職支援に対する設問】		①	②	③	④	⑤
5	特に満足している	5	2	3	3	5
4	多少満足している	3	3	3	2	3
3	どちらでもない	4	5	4	5	1
2	あまり満足していない	0	3	3	3	4
1	まったく満足していない	1	0	0	0	0
	未回答	1	1	1	1	1

[学習・生活支援に対する設問]

設問⑥「課外活動(部活動、学友会、学祭実行委員会等)が充実していて楽しく思い出に残る学生生活が送れる」および設問⑦「毎年有意義な学校行事(大学祭等)が行われている」に関しては、「まったく満足していない」との回答がそれぞれ3割程度見られた。このことに関しては、学生生活を支援する大学側に課題があるのか、あるいは学生個人の取り組み方の問題であったかに関しては、詳細に分析する必要があると思われる。

【学習・生活支援に対する設問】		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
5	特に満足している	5	5	7	6	2	4	3	3	2
4	多少満足している	1	3	1	3	0	1	2	3	2
3	どちらでもない	3	4	5	2	8	2	4	6	4
2	あまり満足していない	3	1	0	1	1	2	0	1	3
1	まったく満足していない	1	0	0	1	2	4	4	0	2
	未回答	1	1	1	1	1	1	1	1	1

[施設・設備に対する設問]

設問③「清潔で機能的で、また快適な校舎で学生生活が送れる」については、高い満足度が得られたことを示す回答結果が得られている一方で、設問⑤「体育館・グラウンドなどの運動施設やサークル活動の支援施設(クラブハウス)が充実している」および設問⑥「休憩時間中にすごせる憩いの場(食堂・中庭・学生ラウンジ等)が充実している」について、「満足していない」との回答が比較的多く見られた。このことに関しては、宮崎キャンパス開設時から浮かび上がっている課題であり、ある程度予想された結果であるとも言える。ただし、体育館やクラブハウスの設置は既になされており、学生による運営方法・使用方法に課題があるのか、あるいはグラウンドなどの運営施設が不足していると学生たちが感じていることを示すのかいずれかであろう。

【施設・設備に対する設問】		①	②	③	④	⑤	⑥
5	特に満足している	4	5	8	6	3	4
4	多少満足している	5	4	2	1	0	1
3	どちらでもない	2	1	2	3	6	3
2	あまり満足していない	2	3	0	2	2	1
1	まったく満足していない	0	0	1	1	2	4

させることに、直接的、間接的に貢献するものである。

4. 学生への支援について

①担任制による学生への目配りと支援

1・2・3年生混合グループを編成してホームを作り、各教員がホーム担任となって、学生への相談・助言・ケア等を行っている。

②履修計画に関するきめ細かい指導

保育士資格・幼稚園教諭免許・小学校教諭免許の3資格免許をどういう組み合わせでどう取得するかについての履修計画づくりへの指導・支援を、特に1、2年生段階で丁寧に実施している。

③キャリア教育としての課外授業「夢を叶える塾」

課外授業として、小学校・幼稚園・保育園の先生として必要な資質・能力を高めることを目的に、1年生対象の「夢を叶える塾Ⅰ」、2・3年生対象の「夢を叶える塾Ⅱ」を毎週開催している。「夢かなⅠ」では県内外で活躍されている方による「講話」等、「夢かなⅡ」では小学校志望者には採用試験対策講座、保育者志望者には手遊びや手作り人形、パネルシアター・ペープサートによる劇づくり等を行った。学年末にはパネルシアターやペープサート劇の発表会を「夢かな劇場」として開催した。また6月には二本松はじめさんを招いて「つながりあそび・うた」のワークショップを全学年参加のもと実施した。

④3年生の教育・保育本格実習の指導・支援

今年度、本学科にとってはじめて、小学校・幼稚園の教育実習、保育所・児童施設の保育実習に3年生を送りだすことになった。特に小学校教育実習に関しては、周到な事前指導が実施され、実習校からは実習生への高い評価を得ることができた。学生たちは大きな達成感を得て、大学での授業への姿勢等に良好な変化がみられている。

⑤学科教員全体での学生に関する情報の共有と支援

学科会議において、「気になる」学生に関しての情報交換・共有に努め、教員全体で支援を行っている。なお、学生支援会議として、学生部教員を含む複数の教員、保健室、学生相談室、学生支援課で気がかりな学生についての情報交換会を行っている（今年度はこれまで2回開催）。学科教員全体で共有した方がよい情報については、その後、学科会議で共有し、学生支援に役立てている。

教養・教職センター

2012年9月10日に教養・教職センターの構成教員3名がFDの協議のために集まった。出席簿の形、感想文の扱いなど工夫と気づきの点を共有した。また年度の終わりに、2013年2月27日にセンター構成教員4名がFDの話合いをした。別頁にたたき台として使った、Slopegraphという、データ表示の図の下に追加の説明を行った。

9. 新たな取り組み

平成 24 年度 FD 活動では、平成 23 年度の活動で課題に挙がっていた「FD 活動の情報公開」について、検討を行ってきた。具体的には、「平成 25 年度に大学ホームページを利用した情報公開開始」という目標を立てて検討を行ってきた。

次年度の大学のホームページを利用した情報公開の方法の検討結果について以下に示す。

南九州大学 FD 活動の情報公開の方法

目的

近年、大学における FD 活動は各大学で活発化してきており、多くの大学で FD 活動の内容を大学のホームページ上などに掲載し、情報公開している。本学においても、積極的に行っている FD 活動の一部を大学ホームページ上に広く公開し、多くのステークホルダーに閲覧いただく機会をつくる。

<公開のメリット>

- 本学の教育研究活動の活発さがステークホルダーに発信できる
- 本学の教育研究活動の信頼度が増す 等

情報公開開始年度

平成 25 年度から開始する

(まずは平成 24 年度の活動の内容を公開し、平成 25 年度分の内容も順次公開していく)

情報公開の内容

- FD 活動報告書を掲載することで対応する
- 基本的にはすべてを掲載する

掲載するのに不適切な部分の検索方法

- ① 作成者がまずは作成しながら判定する
- ② 委員会にて報告書をチェックし判定する
- ③ 掲載が不適切な部分があった場合は、削除した内容のものをホームページ上にアップする

情報公開の方法

- 大学ホームページ上での公開とする
- FD 活動専用のページを作り、そのページ上での公開とする

予算

- 上記のように FD 活動専用のページを設けると別途予算が必要となる。
- 予算は、年度末にある予算立案・事業計画立案時に計上する。(予算計上し、予算が採択されない場合は、ホームページ上の「新着情報」にてアップすることで対応する。)

10. FD 活動の反省と今後の活動

ここでは、平成 24 年度に取り組んだ FD 活動の反省と今後の活動について記述する。本学の FD 活動は、全学的な取り組みと、学科・センター単位での独自の取り組みがある。それぞれⅠ全学的とⅡ学科・センター別とにそれぞれ分けて以下に反省と今後の活動について示す

全学的な反省と今後の活動

授業評価アンケートに関して

当該事業は、本格的に実施されて本年度で 4 年目であった。昨年度課題に挙がっていた「アンケートの回収などで職員の負担が挙げられており、アンケートの回収方法改善などを検討（特に都城キャンパス）」については、アンケート実施関連部署である学生支援課のスタッフのみで対応するのではなく、他部署のスタッフも動員することで負担を軽減した。しかしながら、もう一点課題に挙がっていた「アンケートの対象を全授業とする」という課題のクリアはできなかった。次年度以降は、全授業を対象とする必要性の検討も含めて検討していかなくてはならない。

参観授業に関して

当該事業も本格的に実施されて本年度で 4 年目を迎えた。これまで本事業の大きな課題は「参加率」の低さにある。昨年度、参加促進に力を注いだが、効果がなかった。本年度はさらに参加促進を進めるべく、教授会での十分な呼びかけ、そして各学科の FD 推進委員による学科会議等での十分な呼びかけを行ったが課題解決には至らなかった。次年度以降は参加促進の方法の検討のみならず、実施方法の見直しも含めて検討が必要となると考える。

FD 講演会に関して

本事業も上記 2 事業と同様に本年度で 4 年目を迎えての実施であった。本年度は参加数が例年に比べ少なかったものの、それなりに多くの方に聞いていただけた。また参加者からも内容が満足している・理解できると高評価をいただいている。開催時期についても、学生の夏季休暇中を利用した実施であり、参加しやすい時期を設定できていると思われる。今後は、南九州大学の教員（もちろん職員、短大教員も）にとって、「今必要なことは何か」ととらえ、その内容の講演を準備できるようにしていかなくてはならない。

全体的な反省と今後の活動

大学における FD 活動は、大学教員の教育活動にとどまらず、研究活動や社会貢献、大学内の管理運営を含む広範な教員の活動の資質向上を目的に各大学で実施されてきている。南九州大学の FD 活動は、平成 25 年度で委員会創設 5 年目を迎え、その活動内容も充実してきている。平成 22 年ごろからは、教育活動を重点に置いた活動が中心となってきており、①授業評価アンケートの実施、②参観授業の実施、③FD 講演会の実施、④学科独自の FD 活動など様々な取り組みを行ってきている。平成 24 年度には新規事業である⑤新入生魅力度調査・卒業生満足度調査を始めたところであり、年度を重ねるごとにその活動は充実して

きている。

本学で FD 活動を本格的にスタートさせて以来、まずはシステムづくりに重点をおいて取り組んできた。この 4 年間でほぼシステムの骨格は出来上がってきている。そこで 5 年目の節目を迎える 25 年度は、これまで確立してきた FD 推進システムのもとで取り組まれる諸活動の内容・質の向上をテーマにしていかななくてはならないと思われる。すなわち『ただ"やるだけ"の「FD」から"本当にやる"「FD」へ』と発展させてく年度と位置付け、活動をさらに活発化させなければならないものと思われる。FD 活動事業をただ実施するだけでなく、実施した内容をしっかり評価し、評価の内容により次の計画へフィードバックしていくことを検討していかななくてはならない。委員会で計画する FD 活動の各事業については、今後は PDCA サイクルに基づき業務を運営していくことを検討していかななくてはならないと考えられる。

学科・センター別の反省と今後の活動

環境園芸学科

新入生魅力度調査では学生の生活環境、サークル活動を行う上での環境について十分な魅力を得ていないとの結果が得られた。これらは全学的な問題であり、関係部署と連携をし対応を考えなければならない。また、新入生の中には就職支援活動や学科の担任制などについて知らないものもかなりいることから、これらについてはオリエンテーションや掲示等での周知をより徹底する必要があると考えられる。

今回の調査は同一学生による結果ではないが、卒業生満足度調査と新入生魅力度調査を比較すると、本学の理念、実学教育と少人数教育について卒業生満足度が低下している。一方で教養教育科目および専門基礎科目の設置については卒業生満足度調査の満足度が上昇している。これらの結果は大学としての根幹に関わることであり、大学あるいは学科として早急な結果の分析とその対応が必要である。

授業評価アンケートの結果からは、顕著な値の変化は見られなかったが、一部を除いて全体的にみると、本年度は昨年度より若干ではあるが、上昇しているように見受けられる。少しずつではあるが、確実に改善されているように見受けられることから、このまま改善の努力を惜しまず継続したい。

参観授業については、開催数は 2 授業、参加者各 1 名であった。これまで参観授業の参加者からは有意義な刺激を受けたとの印象が伝えられているのにもかかわらず、前回同様に貴重な FD の機会が活かされていない。参加の促すため参観授業の開催数の増加、あるいは以前行われていた参観義務化なども踏まえた方策が不可欠である。

学科独自に取り組んだ FD 活動については、前年度から継続する活動や企画を繰り返したものの多いが、完成年度として第一期卒業生を迎えるにあたり、学科として新たに卒業研究

概要集の作製を行った。また、専攻による特別講義の開催、新規資格の提示なども行われた。これまでの旧学科（園芸学科、造園学科、地域環境学科）から移行した活動や企画を生かしつつ発展させる活動、さらには独自の新しい活動や企画を積極的に実施し、FD 活動を推進する必要がある。

管理栄養学科

年課題に挙がっているが、管理栄養学科の独自の FD 活動は主に「教育」に関連する活動が充実してきているがそれ以外の活動があまり充実していない。南九州大学 FD 推進委員会規定にも書かれている通り、FD 活動は、教育活動に限らず、研究活動、社会貢献、管理運営に関することにも必要である。管理栄養学科においても、教育活動に関する FD 活動だけでなく、研究活動などの FD 活動も取り入れていくことが必要である。管理栄養学科では、近いうちに厚生労働省（関東厚生局）による監査が予想されている。管理栄養士養成課程で専門基礎科目および専門科目を教授する教員の研究歴が少なければ（毎年一定の研究業績があるかが問われる（過去にたくさんの業績あるのではなく、継続的に研究を行っているかが問われる））、管理栄養士養成施設の専任教員として認められない可能性がある。厚生労働省（関東厚生局）による監査を乗り切るために、各教員の研究推進を組織的に行っていかななくてはならない。その取り組みとして、研究推進の仕組み・方法について次年度以降学科でしっかり考えてまいりたい。

食品健康学科

（1）今年度の反省

今年度の前期・後期の授業評価アンケートの分析結果として、授業実施方法に関しては概ね良好であったが、学生の取り組みに関しては、昨年度同様に平均値が低い結果であった。参観授業に関しては、学科内で参観を促す機会が設けられたにも関わらず、昨年度と同様に参加者が少ない結果となった。教員にとって、どのような参観授業が理想的であるのかを深く議論した上で内容を再検討する必要がある。学科独自の FD 活動に関しては、今年度から新たに導入された活動も含め、昨年度に引き続き学生の教育・研究内容の向上に繋がる各種活動を実施することができた。

（2）次年度以降の FD 活動

授業に関しては、学生がより自主的・積極的に取り組むことに繋がる授業、双方向型の授業を実施するための具体的な方策を立て、実行していくことが必要である。専門教育関連では、食品開発に関する専門知識を実践的により深く学ぶことができるように、引き続き教育体制の整備を実施していく予定である。具体的には、学生の専門知識・技術の習得に繋がる食

品開発実習教育及び醸造実習教育関連の設備の充実をさらに進めていくことにより、実学教育を一段と強化していく予定である。また、地域社会との連携活動を今まで以上に強化して、学生の教育・研究の充実に繋がる産官学の連携を今まで以上に深めていく。県内実業系高校との連携では、25 年度も引き続き宮崎農業高校及び日南振徳高校と連携活動を実施するが、これまで以上に学生がより積極的に参加できる活動を増やしていく予定である。

子ども教育学科

今年度は、本学科にとっては初めての、小学校・幼稚園、保育所・児童施設への本格教育・保育実習が実施された。全教員がそれぞれ分担して小学校、幼稚園、保育所、児童施設への実習先訪問を行った。教育・保育実習への対応を通して、教員及び保育士養成校としての教育方針・目標や学生に育てたいこと、授業と教育・保育実習との関係等について改めて考える機会になった。学科内 FD 研修会でも授業（教科）と教育実習との関係をテーマとして取り上げ、教員同士で深めることができた。

今後の課題としては、第 1 に、今年度に引き続き、教員・保育士養成校として、教育・保育実習と大学での教育・研究との関係性について深めていきたい。関連して、教育・保育実習を環として、大学の教員間＝教科間のつながりについても追求したいと考える。第 2 に、次年度で完成年度を迎え、学生数も更に増える中、上記第 1 の課題の検討も含めた学科内 FD 活動の時間をどう確保し位置づけるか、工夫していきたい。第 3 に、次年度は、新たに認定された「特別支援学校教諭」の履修カリキュラムがスタートするとともに、本学部開設 4 年目となる。これまでの成果と課題を踏まえたカリキュラムの改善等を検討し、その中で、教員の教育活動が一層豊かになるよう努めていきたい。

教養・教職センター

これまでのセンター内の活動をさらに発展させていくために、今後はセンター内で FD に関する検討の回数を増やすことを重視していく（毎月あるいは、2 ヶ月に 1 回ごとに集まることを目指す）。当該検討会では全学的事業である参観授業の参加率を増やすために日程をどうするのか、授業評価アンケートで検討課題になっている「教養科目の必要性」、「教養科目の価値」をどう訴えていくのかを中心に検討していく。